

JILPT 資料シリーズ

No.275 2024年3月

# OHBY カード改訂版に伴う 背景データの分析

—OHBY カードにみる成人の職業興味の特徴—



JILPT 資料シリーズ No.275

2024年3月

# OHBY カード改訂版に伴う 背景データの分析

—OHBY カードにみる成人の職業興味の特徴—

## ま え が き

今般、労働政策研究・研修機構では、2007年に公表したOHBYカードの改訂を行うこととした。OHBYカードは48職業という限られた情報だが、PC等が利用できない環境でも最低限の職業情報に接することができる職業情報ツールとして開発された。また、OHBYカードは職業カードソート技法を日本に普及定着させることも念頭において開発されたが、現在では、当機構で発行しているVRTカードともども様々なカードが官・民・個人で作成され、キャリアコンサルティング等の実践場面で用いられている。OHBYカードは、それ自体の普及もさることながら、日本における職業カードソート技法の普及においても一定の役割を果たしたと言える。

しかしながら、OHBYカードは公表後、既に17年を経えており、掲載されている絵や写真、職業情報、職業名等の改訂の要望が各方面から聞かれるようになっていた。そこで、今般、4分の1程度の職業を入れ替えて、絵や写真をすべて統一感のあるイラストに差し替え、職業情報の内容も刷新することとした。

その際、改訂にあたってはいくつかの検討を行う必要が生じた。特に本研究では、①OHBYカード記載の個別職業に対する興味の属性別特徴の検討、②OHBYカードの広い意味での信頼性と妥当性の検討、③OHBYカードに見る成人の職業興味の特徴の三点を検討することを目的とした。なお、その過程で成人（大学生を含む）の職業興味に関する知見も得られたため、本研究ではそれもとりにまとめた。

本資料シリーズが、OHBYカード改訂の基礎資料としてのみならず、成人の職業興味の今後の研究に資する基本的な情報提供となれば幸いである。

2024年3月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 藤村博之

執筆担当者

氏名	所属	担当
しもむら 下村 ひでお 英雄	労働政策研究・研修機構職業構造・職業指導部門	全章

# 目 次

第1章 背景・問題・目的・方法	1
第1節 背景	1
(1) OHBY カードの開発	1
(2) OHBY カードの特徴	1
(3) OHBY カードの改訂	2
第2節 問題	3
第3節 目的	4
第4節 方法	4
(1) 調査の趣旨	4
(2) 調査の概要	4
第2章 個別職業に対する興味の属性別の特徴	6
第1節 目的	6
第2節 各職業を「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」と回答した割合	6
第3節 「やりたい」職業の属性別の特徴	11
第3章 職業興味の構造の検討	23
第1節 信頼性係数及び内的一貫性	23
第2節 OHBY カードによる職業興味の構造の検討	25
第4章 興味領域の属性別の特徴	32
第1節 各興味領域の平均値・標準偏差・分布	32
第2節 OHBY カードによる測定結果と既存の測定方法による測定結果の比較	33
第3節 OHBY カードによる興味領域の属性別の検討	35
第4節 職業興味が成人のキャリアに与える影響	42
第5節 職業興味に関する基礎的な研究の意義	45
第5章 自由記述	46
第1節 OHBY カードの評定後の自由記述	46
第2節 OHBY カードのイラストに対する評価	46
第3節 OHBY カードによる職業理解・自己理解	48
第4節 OHBY カードによる業種・職種・職業の選好：「対人的な職業」	49
第5節 OHBY カードによる業種・職種・職業の選好：「対人的な職業」以外の職業	52

資料 1	調査票	56
資料 2	単純集計	73

# 第1章 背景・問題・目的・方法

## 第1節 背景

### (1)OHBY カードの開発

労働政策研究・研修機構では、今般、2007年に公表した「OHBY カード」の改訂を行う。

OHBY カードは、かつて当機構から公表されていた「職業ハンドブック OHBY」で使用された写真やイラストを48枚のカードに印刷したものである。OHBYはOccupational HandBook for Youthの略であり、若年者の職業理解に資するパソコン上で動作するDVDソフトの名称であった。48職業という限られた情報ながらも、PCが利用できない場面でも最低限の職業情報に接することができる職業情報ツールとして開発された。

ただし、OHBYカードは職業情報ツールである一方で、職業カードソート技法を行うために開発されたツールでもある。職業カードソート技法は、アメリカを中心に諸外国では幅広く知られているキャリアガイダンス手法である。この手法ではカードを分類したり、並べ替えたりといった作業をする中から、自分の職業興味などを知り、関心のある職業やこれまで知らなかった職業の内容について知ることができる。職業カードソート技法には様々な実施方法があり、1対1のカウンセリング場面で使用する方法、グループ形式で使用する方法、学校の授業で使用する方法など柔軟な活用方法がある。OHBYカードも、これまで主に国内の各地で様々な形で活用されてきた。

加えて、OHBYカードは、子どもから若者、大学生から中高年まで多様なニーズに柔軟に対応し、様々な場面・目的で活用されてきた。本来、職業情報ツールであるため、職業情報の入手が難しく、情報格差が生じやすい対象層（特別支援学校、へき地学校等、児童自立支援施設等）に職業情報を提供することを狙いとして開発し、実際、上記の機関・組織・場所を含めて様々な場面で活用された。具体的に、OHBYカードの主な購入先は、中学・高校・大学の教職員、個人、労働局、特別支援学校、少年院など、NPO 団体（サポステ）などであり、2007年1月～2023年12月までにOHBYカード本体は17,509個、同活用の手引きは7,691冊を販売した。

### (2)OHBY カードの特徴

OHBYカードそのものの特徴は以下の4点に整理される。

第一に、カードの取り扱いが容易である点である。海外のカード式職業情報ツールには、30枚程度から数百枚のものまで多種多様の形式のカードがある。OHBYカードでは、実際に作業するにあたって扱いやすい枚数であることを重視した結果、トランプや花札など古くからある遊技用のカードに準ずる枚数を目安として開発した。

第二に、絵や写真などを用いた点である。諸外国で開発されたカード式職業情報ツールは、ほとんどが表面に職業名、裏面に職業解説が掲載された文字情報を中心としていた。それに

対して、OHBY カードは文字情報の他に絵や写真をカードに含めた。絵や写真を手がかりに作業を行う方がガイダンス効果が大きいと考えられたためである。ただし、今回、改訂にあたっては従来、絵と写真だったカードからイラスト 2 枚を配置した絵のみカードにした。絵は職業を理解する上で必要な要素を強調し、必要ない要素を省略できるメリットがある。今回の改訂ではそれを重視した。

第三に、カード裏面をホルランドの 6 類型 (RIASEC ; Holland, 1959) で色を塗り分けた点である。ホルランドの 6 類型では、職業興味を「現実的」「研究的」「芸術的」「社会的」「企業的」「慣習的」の 6 類型に分ける。この 6 類型は人と環境 (≡ 職業) に共通する類型であるため、ある類型の環境 (≡ 職業) を好む人は、その類型に職業興味があると解釈することができる。OHBY カードではカード裏面を 6 類型に塗り分けて、それぞれ 8 職業 (8 枚のカード) を用意した。そして、職業カードソート技法の結果、何色のカードを何枚「やりたい」あるいは「やりたくない」と分類したかで利用者の職業興味を判定できるようにした。

第四に、職業理解と自己理解を同時に深められる点である。職業カードソート技法では、伝統的に標準的手続きが定められている他、上述のとおり、様々な活用方法がある。しかしながら、その活用方法の共通点は職業の絵を見て自分の職業興味を考えるというものである。実際の職業の場面を見た印象から自己理解を深めるという点で、職業情報ツールとしてのみならず、自己理解ツールとしても機能する

以上、OHBY カードの特徴を 4 点にまとめた。改訂前の OHBY カードはこの 17 年の間に一定程度まで国内で普及した。当初、職業カードソート技法を日本に普及定着させることも念頭において開発されたが、現在では、当機構で発行している VRT カードをはじめ、様々なカードが官・民・個人で作成され、実際のキャリアコンサルティング等の実践で用いられている。その意味では、OHBY カードそのものの普及もさることながら、日本における職業カードソート技法の普及においても一定の役割を果たしたと言えるだろう。

### (3)OHBY カードの改訂

しかしながら、OHBY カードは公表後、既に 17 年を経ており、「掲載されている絵や写真が古い」、「職業情報の記載内容が古い」、「最近の職業名に変えてほしい」といった要望が聞かれるようになっていた。そこで、今般、4 分の 1 程度の職業を入れ替えて、絵や写真をすべて統一感のあるイラストに差し替え、職業情報の内容も刷新することとした。

特に職業情報内容については、従来、他のキャリアガイダンスツールやサイトとの連携を意識して当時の「キャリアマトリックス」(労働政策研究・研修機構, 2006 ; 2011) のマーク、産業分類、DPT 分類などを付与した。そのマークや分類をたどることによって他のキャリアガイダンスツールに結びつき、広がり、さらなる職業情報の学習へとつながることを狙いとした。

今回、そうした他のサイトへの連携はおもに厚生労働省の「job tag」との連携を中心とし、

職業情報の内容も習得すべきスキルや就職の仕方（＝なるには）をメインにするなど、実際にスキルアップ、リスキリング、就職、転職などを意識したものとした。あわせて、従来から OHBY カードの特徴の1つでもあった「職業理解と自己理解を同時に深められる点」、すなわち、OHBY カードを使用することによって、利用者本人の職業興味がおおむね判別できる仕組みも残した。改定前のカードがカードの下半分を塗り分けていたのに対して、改定後のカードではカード全面に淡い色調で塗り分けるなどの改訂を施した。

## 第2節 問題

上記の改訂の基本的な方針に基づき、OHBY カードの表面・裏面ともに改定後の新たな内容に差し替えたが、一方で改訂にあたってはいくつかの検討を行う必要があると考えられた。具体的には以下の3点である。

第一に、個別職業に対する興味の属性別特徴の検討である。今回、OHBY カードの改訂にあたって 48 職業のうち約4分の1に相当する 12 職業の差し替えを行った。そのため、個別のカードが利用者にどのように評価されるのかを改めて検討する必要性が生じた。具体的には、各職業がどの程度「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」に分類されるのか、その割合を検討する必要がある。また、そうした基礎的なデータに加えて様々な属性で各カードがどのように評定されるのかについても検討する必要がある。こうした基礎的なデータは、改定後の OHBY カードの活用場面においても有益な情報を提供すると考えられた。そこで、このたび改訂した 48 個の個別職業に対する興味の特徴について検討することとした。

第二に、OHBY カードの広い意味での信頼性と妥当性の検討である。OHBY カードは、本来、職業情報ツールとして開発されたが、OHBY カードに簡単な職業興味を知るための機能を付与した。具体的には、OHBY カード利用の過程で職業情報を知ることのみならず、利用者本人の職業興味についても知る手がかりが得られるようにした。すなわち、OHBY カードを活用する過程でどのカードを選好したかあるいは忌避したかによって本人の職業興味が分かることも特徴とした。その際、本人の職業興味を反映するというある程度確固たる根拠が必要となる。OHBY カードは前回の公表時から VPI 職業興味検査等との相関関係を検討してきたが、今回の改訂にあたっては、引き続き利用者の職業興味を測定できているのか確認することとした。

第三に、OHBY カードを活用するにあたっては、利用者の職業興味を類型別に捉えることも重要である。特に、どのような属性を持つ利用者がどのような職業興味領域を選好する傾向があるのか。逆に忌避する傾向があるのか。また、各職業興味領域に対する選好は、成人（大学生含む）のキャリアにどのような影響を与えるのか。こうした職業興味に関する基本的なデータ及び知見は、やはり実践場面において有効に活用しうる。本研究では大学生および成人の職業興味の特徴について一定の知見を提供することを念頭に置きつつ、OHBY カードのイラストの評定結果をもとに、大学生および成人の職業興味の特徴を示すこととした。

### 第3節 目的

以上、本研究では、①OHBY カード記載の個別職業に対する興味の属性別特徴の検討、②OHBY カードの広い意味での信頼性と妥当性の検討、③OHBY カードに見る成人の職業興味の特徴の三点を検討することを目的とする。

なお、その過程で成人（大学生を含む）の職業興味に関する知見も得られるため、本報告書ではそれもとりにまとめることとした。

### 第4節 方法

#### (1)調査の趣旨

OHBY カードの改訂版の制作にあたって、表面のイラスト、裏面の本文を差し替えた試作版を用いて改訂版制作に向けた基礎的データの収集を行う。特に、他の職業興味尺度及びキャリア意識尺度等との関連性が示されるか、カード使用後の結果が他の想定される結果と齟齬が生じないか、新たに作成する改訂版として一定の信頼性・妥当性が確保されているか等、OHBY カード改訂版が従来の版と同等の機能・効果を持ちうるかについて検討を行うことを目的とする。

#### (2)調査の概要

①調査対象 インターネット上のモニター800名。内訳は、大学生（200名）、20代（大学生を除く200名）、30代（200名）、40代（200名）。各年代ともに性別を半数ずつとした。

②調査方法等 調査会社のモニターを利用したWebモニター調査

#### ③主な調査項目

- ・OHBY カード試作版の評定
- ・OHBY カード試作版評定後の自由記述
- ・職業興味領域の単純選択
- ・既存の職業興味尺度（job tag の職業興味検査）
- ・キャリア意識（キャリア成熟度尺度、職業生活に対するキャリア満足感）
- ・フェイスシート（性別、年齢、最終学歴、雇用形態、業務内容、年収等）

（詳細は巻末調査票を参照のこと）

④目標回答数 上記800名の調査対象者数を収集した時点で調査を終了した。

⑤実施時期 令和5年10～11月（10/27調査開始、11/3調査終了）

なお、本調査はオンライン上での調査であったことを活かして、上記のうち「OHBY カード改訂版の評定」及び「既存の職業興味尺度（job tag の職業興味検査）」については、カード（イラスト2枚）や項目をランダムに提示した。これは提示順によって、回答に一定の傾向が生じないようにするためである。

また、「OHBY カード試作版評定後の自由記述」は必須回答とし、回答者に何らかの形での記入を求めるように依頼した。ただし、この場合でも回答を望まない回答者については、「特になし」やスペース等の入力でスキップすることを認めているため、回答を強制した形にはなっていないことを付言する。

#### 引用文献

Holland, J. L. (1959). A theory of vocational choice. *Journal of Counseling Psychology*, 6(1), 35–45.

労働政策研究・研修機構（2006）. 総合的職業情報データベース「キャリアマトリックス」の一般公開－最大級の職業情報データベースとガイダンスシステム－ 労働政策研究・研修機構プレスリリース <https://www.jil.go.jp/press/documents/20060901.pdf> (2006年8月31日).

労働政策研究・研修機構（2011）. 総合的職業情報データベースの研究開発 労働政策研究・研修機構資料シリーズ No. 86.

## 第2章 個別職業に対する興味の属性別の特徴

### 第1節 目的

前章で述べたとおり、今回、OHBY カードの改訂にあたって 48 職業のうち約 4 分の 1 に相当する 12 職業の差し替えを行った。そのため、個別のカードが利用者にどのように評価されるのかを改めて検討する必要性が生じた。具体的には、各職業がどの程度「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」に分類されるのか、その割合を検討する必要がある。また、そうした基礎的なデータに加えて、様々な属性（年齢、性別、学歴等）で各カードがどのように評定されるのかについても検討する必要がある。こうした基礎的なデータは、改定後の OHBY カードの活用場面においても有益な情報を提供すると考えられた。そこで、このたび改訂した 48 個の個別職業に対する興味の特徴について検討することとした。

以上の問題意識に基づき、以下では、各職業が「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」に分類された割合を見ていく。OHBY カードの実際の使用においては「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」に分類することが最も基本となる。そこで、本調査でも PC の画面上で改定後の OHBY カードに掲載予定のイラストを 1 職業につき 2 枚ずつ提示して、この職業を「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」で評定することを求めた。まず、その結果を見ていくこととする。

### 第2節 各職業を「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」と回答した割合

OHBY カードの 48 職業のうち、どの職業が最も「やりたい」（興味をもった、やってみたい）と思ったのか、逆に、どの職業が「やりたくない」（興味をもてない、やりたくない）と思ったのかを検討するために、各職業が「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」に分類された割合を示した。なお、OHBY カードは、第 1 章「(2)OHBY カードの特徴」で示したとおり、ホルランドの 6 類型（RIASEC；Holland, 1959）のそれぞれについて 8 職業（8 枚のカード）を用意している。ある類型をすべて「やりたい」と評定した場合、8 職業が含まれる。

図表 2-1 に、各職業に「やりたい」と回答した割合を示した。最も値が大きかったのは「舞台美術スタッフ」35.3%であった。すなわち、今回の調査の回答者が最も興味を持った（やってみたいと思った）職業は「舞台美術スタッフ」であり、その割合は全回答者の 3 分の 1 を超えていたことが示される。次いで値が大きかったのは「イラストレーター」34.6%だった（イラスト内容については図表 2-2 参照）。以下、「和菓子職人」33.6%、「バイオテクノロジー研究者」33.4%、「インダストリアルデザイナー」32.4%と続いていた。なお、「やりたい」と回答された職業の上位 10 位までに「芸術的」な職業が 5 個含まれていた（舞台美術スタッフ、イラストレーター、インダストリアルデザイナー、ファッションデザイナー、アートディレクター）。「芸術的」な職業は 8 職業あるため、62.5%が 10 位以内に入っていた。「芸術的」な職業に対する興味関心の高さがうかがえる。

図表2-1 「やりたい」と回答した割合(%の大きい順に並べ替え)

順位	職業名	タイプ	n	%	順位	職業名	タイプ	n	%
1	舞台美術スタッフ	芸術的	282	35.3	25	旅行会社カウンター係	慣習的	178	22.3
2	イラストレーター	芸術的	277	34.6	26	獣医師	研究的	177	22.1
3	和菓子職人	現実的	269	33.6	27	税理士	慣習的	176	22.0
4	バイオテクノロジー研究者	研究的	267	33.4	28	気象予報士	研究的	175	21.9
5	インダストリアルデザイナー	芸術的	259	32.4	29	秘書	慣習的	169	21.1
5	航空管制官	慣習的	259	32.4	30	酪農従事者	現実的	163	20.4
7	薬剤師	研究的	254	31.8	31	医療事務	慣習的	162	20.3
8	ファッションデザイナー	芸術的	226	28.2	32	診療放射線技師	研究的	155	19.4
8	ソフトウェア開発	研究的	226	28.2	33	ホテル・旅館支配人	企業的	148	18.5
10	アートディレクター	芸術的	223	27.9	34	大工	現実的	143	17.9
11	カフェ店員	社会的	219	27.4	35	日本語教師	社会的	141	17.6
12	コピーライター	芸術的	217	27.1	36	保育士	社会的	137	17.1
13	学校事務	慣習的	215	26.9	37	ツアーコンダクター	企業的	136	17.0
14	放送ディレクター	企業的	211	26.4	38	キャリアカウンセラー	社会的	135	16.9
15	学芸員	研究的	207	25.9	39	新聞記者	企業的	126	15.8
16	翻訳者	芸術的	203	25.4	40	自動車組立	現実的	125	15.6
17	ハンバーガーショップ店長	企業的	199	24.9	41	外交官	社会的	118	14.8
18	司法書士	慣習的	196	24.5	42	小学校教員	社会的	116	14.5
19	スーパー店長	企業的	190	23.8	43	路線バス運転手	現実的	115	14.4
20	商社営業	企業的	186	23.3	44	看護師	社会的	103	12.9
21	稲作農業者	現実的	185	23.1	45	自動車営業	企業的	102	12.8
21	電車運転士	現実的	185	23.1	46	ホームヘルパー	社会的	100	12.5
23	テレビカメラマン	芸術的	179	22.4	47	歯科医師	研究的	95	11.9
24	空港グランドスタッフ	慣習的	178	22.3	48	とび	現実的	82	10.3

図表2-2 「舞台美術スタッフ」(左列)と「イラストレーター」のイラスト(右列)



図表2-3には、各職業に「やりたくない」と回答した割合を示した。最も値が大きかったのは「とび」73.4%であり、その割合は全回答者の3/4弱であった。以下、「歯科医師」69.6%、「看護師」68.3%、「ホームヘルパー」67.4%と続いていた。なお、「やりたくない」と回答された職業の上位10位までに「社会的」な職業が5個含まれていた(看護師、ホームヘルパー、外交官、小学校教員、保育士;イラスト内容については図表2-4参照)。こちらも「社会的」な職業は全部で8職業あるため、62.5%が10位以内に入っていたことが示されている。やりたくない職業では「社会的」な職業に対する興味関心の低さがうかがえる。

また、「やりたい」職業と「やりたくない」職業を比較した場合、全般的に「やりたくない」職業の割合(%)の値が大きいことが示される。図表2-1に示したとおり、「やりたい」職業の%は概して10~30%台の値をとっているのに対して、「やりたくない」職業の%は30~70%であり、「やりたくない」職業の値が大きい。概してOHBYカードは旧版でも「やりたい」に分類されるカードが少なく、「やりたくない」に分類されるカードが多いことが経験的に知られていた。今回、OHBYカードのイラストを評定した結果でも、同様の傾向がはっきり示されていたことが分かる。

図表2-5には、各職業に「どちらともいえない」と回答した割合を示した。最も値が大きかったのは「コピーライター」30.1%であり、その割合は全回答者の約3割であった。以下、「学校事務」29.3%、「医療事務」28.6%、「翻訳者」27.8%と続いていた。なお、「どちらともいえない」と回答された職業では上位10位までに特徴的なタイプは見られなかった。強いて言えば、むしろ「現実的」「社会的」な職業が上位に含まれない点が特徴と言える。その他は、おおむね「やりたい」職業の上位20位以内に含まれている職業が多かった(1位「コピーライター」→「やりたい職業」12位、2位「学校事務」→「やりたい職業」13位、4位「翻訳者」→「やりたい職業」16位、6位「スーパー店長」→「やりたい職業」19位、7位「バイオテクノロジー研究者」→「やりたい職業」4位、8位「アートディレクター」→「やりたい職業」10位、10位「ソフトウェア開発」→「やりたい職業」8位)。その意味では「やりたい」職業に準ずる職業群が「どちらともいえない」に該当していたと言えよう。

図表2-3 「やりたくない」と回答した割合(%の大きい順に並べ替え)

順位	職業名	タイプ	n	%	順位	職業名	タイプ	n	%
1	とび	現実的	587	73.4	25	秘書	慣習的	425	53.1
2	歯科医師	研究的	557	69.6	25	稲作農業者	現実的	425	53.1
3	看護師	社会的	546	68.3	27	気象予報士	研究的	422	52.8
4	ホームヘルパー	社会的	539	67.4	28	医療事務	慣習的	409	51.1
5	自動車営業	企業的	523	65.4	29	商社営業	企業的	407	50.9
5	外交官	社会的	523	65.4	29	ハンバーガーショップ店長	企業的	407	50.9
7	路線バス運転手	現実的	517	64.6	31	司法書士	慣習的	401	50.1
8	小学校教員	社会的	514	64.3	32	スーパー店長	企業的	396	49.5
9	自動車組立	現実的	506	63.2	33	学芸員	研究的	390	48.8
10	保育士	社会的	494	61.8	34	ファッションデザイナー	芸術的	389	48.6
11	ツアーコンダクター	企業的	487	60.9	34	放送ディレクター	企業的	389	48.6
12	日本語教師	社会的	483	60.4	36	カフェ店員	社会的	385	48.1
13	新聞記者	企業的	479	59.9	37	翻訳者	芸術的	375	46.9
14	大工	現実的	478	59.8	38	アートディレクター	芸術的	365	45.6
15	酪農従事者	現実的	458	57.3	39	ソフトウェア開発	研究的	363	45.4
16	キャリアカウンセラー	社会的	454	56.8	40	イラストレーター	芸術的	353	44.1
17	ホテル・旅館支配人	企業的	446	55.8	41	学校事務	慣習的	351	43.9
18	旅行会社カウンター係	慣習的	443	55.4	42	コピーライター	芸術的	342	42.8
19	電車運転士	現実的	438	54.8	43	航空管制官	慣習的	333	41.6
20	空港グランドスタッフ	慣習的	434	54.3	44	インダストリアルデザイナー	芸術的	332	41.5
21	診療放射線技師	研究的	433	54.1	44	和菓子職人	現実的	332	41.5
22	テレビカメラマン	芸術的	430	53.8	46	薬剤師	研究的	324	40.5
23	税理士	慣習的	429	53.6	47	バイオテクノロジー研究者	研究的	320	40.0
23	獣医師	研究的	429	53.6	48	舞台美術スタッフ	芸術的	316	39.5

図表2-4 「看護師」(左列)と「ホームヘルパー」のイラスト(右列)



図表2-5 「どちらとも言えない」と回答した割合(%の大きい順に並べ替え)

順位	職業名	タイプ	n	%	順位	職業名	タイプ	n	%
1	コピーライター	芸術的	241	30.1	24	新聞記者	企業的	195	24.4
2	学校事務	慣習的	234	29.3	26	ハンバーガーショップ店長	企業的	194	24.3
3	医療事務	慣習的	229	28.6	26	獣医師	研究的	194	24.3
4	翻訳者	芸術的	222	27.8	28	テレビカメラマン	芸術的	191	23.9
4	薬剤師	研究的	222	27.8	29	稲作農業者	現実的	190	23.8
6	スーパー店長	企業的	214	26.8	30	空港グランドスタッフ	慣習的	188	23.5
7	バイオテクノロジー研究者	研究的	213	26.6	31	ファッションデザイナー	芸術的	185	23.1
8	アートディレクター	芸術的	212	26.5	32	旅行会社カウンター係	慣習的	179	22.4
8	診療放射線技師	研究的	212	26.5	32	大工	現実的	179	22.4
10	ソフトウェア開発	研究的	211	26.4	32	酪農従事者	現実的	179	22.4
10	キャリアカウンセラー	社会的	211	26.4	35	ツアーコンダクター	企業的	177	22.1
12	インダストリアルデザイナー	芸術的	209	26.1	35	電車運転士	現実的	177	22.1
13	航空管制官	慣習的	208	26.0	37	日本語教師	社会的	176	22.0
14	商社営業	企業的	207	25.9	38	自動車営業	企業的	175	21.9
15	秘書	慣習的	206	25.8	39	イラストレーター	芸術的	170	21.3
15	ホテル・旅館支配人	企業的	206	25.8	39	小学校教員	社会的	170	21.3
17	司法書士	慣習的	203	25.4	41	自動車組立	現実的	169	21.1
17	気象予報士	研究的	203	25.4	41	保育士	社会的	169	21.1
17	学芸員	研究的	203	25.4	43	路線バス運転手	現実的	168	21.0
20	舞台美術スタッフ	芸術的	202	25.3	44	ホームヘルパー	社会的	161	20.1
21	放送ディレクター	企業的	200	25.0	45	外交官	社会的	159	19.9
22	和菓子製造、和菓職人	現実的	199	24.9	46	看護師	社会的	151	18.9
23	カフェ店員	社会的	196	24.5	47	歯科医師	研究的	148	18.5
24	税理士	慣習的	195	24.4	48	とび	現実的	131	16.4

以上、各職業を「やりたい」「やりたくない」「どちらとも言えない」に分類した割合について検討した。「やりたい」と回答した割合が大きかったのは「舞台美術スタッフ」「イラストレーター」などの「芸術的」な職業であった。逆に「やりたくない」と回答した割合が大きかったのは「とび」であったが、「看護師」「ホームヘルパー」などの「社会的」な職業も多かった。

「やりたい」職業と「やりたくない」職業を比較した場合、全般的に「やりたくない」職業の割合の値が大きいたことが示された。概して OHBY カードは旧版でも「やりたい」に分類されるカードが少なく、「やりたくない」に分類されるカードが多いことが経験的に知られていたが、そうした傾向が確認された。

なお、各職業に「どちらともいえない」と回答した割合が大きかったのは「コピーライター」「学校事務」「医療事務」であった。「現実的」「社会的」以外の職業が多い点の特徴と言えるが、概して「やりたい」職業の上位に含まれている職業が「どちらともいえない」でも多かった。

### 第3節 「やりたい」職業の属性別の特徴

「やりたい」と回答された職業に属性別の特徴がみられるかについて検討を行った。

図表2-6には、年齢別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。0.1%水準で統計的に有意で最も年齢別の差がみられたのは「コピーライター」であった。大学生の39.0%がやりたいと回答した一方で、40代では23.0%であった。以下、1%水準で統計的に有意に年齢差がみられたのは「商社営業」（大学生31.5%、40代23.0%）、「ツアーコンダクター」（大学生25.0%、40代13.0%）、「バイオテクノロジー研究者」（大学生32.0%、40代42.0%）、「小学校教員」（大学生22.0%、40代9.5%）であった。「バイオテクノロジー研究者」のみ40代の方が値が大きかった。その他の職業も含めて、概して大学生の方が「やりたい」と回答した割合が高かった。中でも、特に年齢差がみられた上述の職業は、「コピーライター」「テレビカメラマン」「翻訳者」のような「芸術的」な職業か、あるいは「旅行会社カウンター係」「ツアーコンダクター」「ホテル・旅館支配人」のようなサービスの職業、「キャリアカウンセラー」「小学校教員」のような「社会的」（＝対人的）な職業が多かったと考察することができる。

図表2-7には、性別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。0.1%水準で統計的に有意で性差がみられた職業は比較的多かった。女性の方が値が大きかったのは「舞台美術スタッフ」「ファッションデザイナー」「イラストレーター」「薬剤師」「和菓子職人」「カフェ店員」であった。男性の方が値が大きかったのは「自動車営業」「ソフトウェア開発」「自動車組立」「電車運転士」であった。概して、「芸術的」「慣習的」「研究的（ソフトウェア開発を除く）」な職業では女性の方が値が大きく、「現実的」な職業では男性の方が値が大きかった。また、先に示した年齢差よりも、性差を示す職業が多いことが示される。端的に、世間一般にいわゆる女性的な対象を取り扱う職業（例：ファッションデザイナー、カフェ店員、保育士）は女性が関心を示し、男性的な対象を取り扱う職業（例：自動車営業、大工、電車運転士、路線バス運転手）には男性が関心を示したと、一応、言える結果であった。一方で、「キャリアカウンセラー」「小学校教員」など、「相談」や「子ども」といった必ずしも男性的だと一般にはみなされず、むしろ女性的であると考えられがちな対象を取り扱う職業であり、実際にも女性の就業率が高い職業に、男性が高い関心を示した結果もみられた。職業の選好には極めて強い性別の違いがあることは、キャリア心理学全般において従来指摘されてきた。本研究においても、おおむね緩やかに性別の職業ステレオタイプと性別の職業選好は関連していたと考えられるが、必ずしもそうではない結果もみられており、今後、より慎重な検討が継続的に求められる。

図表2-6 年齢別にみた「やりたい」と回答した割合

		大学生 n=200	20代 n=200	30代 n=200	40代 n=200	sig.
稲作農業者	現実的	22.0%	20.0%	25.0%	25.5%	
自動車組立	現実的	14.0%	14.0%	17.5%	17.0%	
大工	現実的	17.5%	16.0%	16.5%	21.5%	
電車運転士	現実的	24.5%	22.5%	19.5%	26.0%	
とび	現実的	11.0%	11.5%	9.5%	9.0%	
酪農従事者	現実的	23.0%	20.0%	20.0%	18.5%	
路線バス運転手	現実的	18.0%	15.0%	14.0%	10.5%	
和菓子職人	現実的	31.0%	33.0%	33.5%	37.0%	
バイオテクノロジー研究者	研究的	32.0%	25.5%	34.0%	42.0%	**
気象予報士	研究的	24.5%	20.5%	20.5%	22.0%	
歯科医師	研究的	14.5%	11.5%	13.0%	8.5%	
獣医師	研究的	19.0%	25.5%	20.5%	23.5%	
診療放射線技師	研究的	18.0%	20.0%	20.5%	19.0%	
ソフトウェア開発	研究的	30.0%	28.0%	27.0%	28.0%	
学芸員	研究的	29.0%	23.0%	29.0%	22.5%	
薬剤師	研究的	30.5%	29.0%	35.5%	32.0%	
コピーライター	芸術的	39.0%	23.5%	23.0%	23.0%	***
テレビカメラマン	芸術的	29.5%	21.5%	18.0%	20.5%	*
舞台美術スタッフ	芸術的	36.0%	35.0%	31.0%	39.0%	
インダストリアルデザイナー	芸術的	37.0%	31.0%	28.5%	33.0%	
アートディレクター	芸術的	35.0%	25.0%	24.0%	27.5%	
ファッションデザイナー	芸術的	32.0%	31.5%	28.0%	21.5%	
翻訳者	芸術的	33.5%	22.0%	24.0%	22.0%	*
イラストレーター	芸術的	36.5%	38.5%	32.5%	31.0%	
外交官	社会的	18.5%	13.0%	13.5%	14.0%	
看護師	社会的	17.0%	14.0%	11.5%	9.0%	
カフェ店員	社会的	29.5%	27.5%	32.0%	20.5%	
キャリアカウンセラー	社会的	24.0%	13.5%	15.5%	14.5%	*
小学校教員	社会的	22.0%	13.5%	13.0%	9.5%	**
日本語教師	社会的	22.5%	17.5%	14.5%	16.0%	
保育士	社会的	17.0%	17.0%	21.0%	13.5%	
ホームヘルパー	社会的	16.5%	12.5%	9.5%	11.5%	
自動車営業	企業的	15.5%	15.5%	12.0%	8.0%	
商社営業	企業的	31.5%	22.0%	16.5%	23.0%	**
新聞記者	企業的	18.0%	16.0%	15.5%	13.5%	
スーパー店長	企業的	27.5%	18.0%	26.0%	23.5%	
ツアーコンダクター	企業的	25.0%	13.0%	17.0%	13.0%	**
ホテル・旅館支配人	企業的	25.0%	16.5%	18.0%	14.5%	*
ハンバーガーショップ店長	企業的	28.5%	28.0%	25.5%	17.5%	*
放送ディレクター	企業的	32.0%	25.0%	24.0%	24.5%	
医療事務	慣習的	26.5%	16.5%	19.0%	19.0%	
学校事務	慣習的	32.0%	22.5%	26.0%	27.0%	
空港グランドスタッフ	慣習的	27.5%	21.5%	21.0%	19.0%	
航空管制官	慣習的	37.5%	29.0%	29.0%	34.0%	
司法書士	慣習的	28.0%	25.0%	25.5%	19.5%	
税理士	慣習的	24.5%	20.5%	23.5%	19.5%	
秘書	慣習的	23.0%	19.5%	21.5%	20.5%	
旅行会社カウンター係	慣習的	29.0%	20.0%	23.0%	17.0%	*

※sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、有意に値が小さい箇所に下線を付した。

図表2-7 性別にみた「やりたい」と回答した割合

		男性 n=400	女性 n=400	sig.
稲作農業者	現実的	26.8%	19.5%	*
自動車組立	現実的	21.5%	9.8%	***
大工	現実的	21.8%	14.0%	**
電車運転士	現実的	29.5%	16.8%	***
とび	現実的	13.5%	7.0%	**
酪農従事者	現実的	21.5%	19.3%	
路線バス運転手	現実的	17.0%	11.8%	*
和菓子職人	現実的	26.8%	40.5%	***
バイオテクノロジー研究者	研究的	32.3%	34.5%	
気象予報士	研究的	22.8%	21.0%	
歯科医師	研究的	11.5%	12.3%	
獣医師	研究的	19.0%	25.3%	*
診療放射線技師	研究的	18.3%	20.5%	
ソフトウェア開発	研究的	34.8%	21.8%	***
学芸員	研究的	21.5%	30.3%	**
薬剤師	研究的	25.8%	37.8%	***
コピーライター	芸術的	26.5%	27.8%	
テレビカメラマン	芸術的	21.5%	23.3%	
舞台美術スタッフ	芸術的	29.8%	40.8%	***
インダストリアルデザイナー	芸術的	29.3%	35.5%	
アートディレクター	芸術的	25.3%	30.5%	
ファッションデザイナー	芸術的	21.0%	35.5%	***
翻訳者	芸術的	25.5%	25.3%	
イラストレーター	芸術的	26.8%	42.5%	***
外交官	社会的	18.8%	10.8%	**
看護師	社会的	11.0%	14.8%	
カフェ店員	社会的	21.3%	33.5%	***
キャリアカウンセラー	社会的	20.0%	13.8%	*
小学校教員	社会的	17.5%	11.5%	*
日本語教師	社会的	17.0%	18.3%	
保育士	社会的	13.3%	21.0%	**
ホームヘルパー	社会的	12.0%	13.0%	
自動車営業	企業的	17.3%	8.3%	***
商社営業	企業的	25.8%	20.8%	
新聞記者	企業的	18.0%	13.5%	
スーパー店長	企業的	21.3%	26.3%	
ツアーコンダクター	企業的	16.5%	17.5%	
ホテル・旅館支配人	企業的	16.0%	21.0%	
ハンバーガーショップ店長	企業的	20.3%	29.5%	**
放送ディレクター	企業的	24.3%	28.5%	
医療事務	慣習的	19.5%	21.0%	
学校事務	慣習的	25.3%	28.5%	
空港グランドスタッフ	慣習的	17.8%	26.8%	**
航空管制官	慣習的	34.8%	30.0%	
司法書士	慣習的	25.3%	23.8%	
税理士	慣習的	23.5%	20.5%	
秘書	慣習的	16.5%	25.8%	**
旅行会社カウンター係	慣習的	20.5%	24.0%	

※sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、有意に値が小さい箇所に下線を付した。

図表2-8には、居住地別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。0.1%水準で統計的に有意に差がみられた職業はなく、「翻訳者」に1%水準で統計的に有意な差がみられ、「関東」で値が高かった。また、「放送ディレクター」「外交官」では「関東」で値が高く、「九州沖縄」で値が低かった。その他、「イラストレーター」は「中部」で値が高く、「九州沖縄」で値が低かった。大学が集中する「関東」では相対的に高学歴の回答者が多く、そのため概して大卒以上の学歴が求められる「翻訳者」「放送ディレクター」「外交官」などの値が高くなった可能性はある。しかしながら、同様の考察が可能な他の職業では統計的に有意な結果が示されておらず、十分に妥当な解釈とは言えない。ここでは、偶発的に生じた有意差であると考えておきたい。

図表2-9には、学歴別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。0.1%水準で統計的に有意で学歴別の差がみられたのは「コピーライター」「翻訳者」「学校事務」「司法書士」「税理士」「ソフトウェア開発」「外交官」であった。おおむね「大学（文系）」が最も値が大きく、「中学・高等学校」「専修学校・短大・高専」で値が低かった。ただし、「翻訳者」「司法書士」では「大学院（文系）」の値も高かった。職業の選好については、性差と同じくらい、職業の社会的な評価である威信（prestige）も深く関わっており、職業威信と学歴がおおむね対応することも知られている。すなわち、職業に対する社会的な評価が頑健なものとしてあり、それと学歴が対応するために、結果的に大卒者と非大卒者で職業の選好に差がみられたと解釈できる。

それ以外の職業では「空港グランドスタッフ」で「専修学校・短大・高専」の値が高く、「中学・高等学校」の値が低かった。これは「専修学校・短大・高専」に女性が多く含まれるため（女性71.7%、男性28.3%）と考えられるが、何らかの他の理由も想定される。

また、「大学（理系）」の値が高かった職業として「商社営業」「歯科医師」「小学校教員」が示された。「歯科医師」は「研究的」職業に含まれるため理系の大学卒者が選好することは理解しうるが、「商社営業」「小学校教員」については不明である。

図表2-8 居住地別にみた「やりたい」と回答した割合

		北海道 東北 n=62	関東 n=360	中部 n=114	関西 n=135	中国 四国 n=54	九州 沖縄 n=54	sig.
稲作農業者	現実的	24.1%	21.9%	22.8%	28.1%	20.4%	20.4%	
自動車組立	現実的	19.3%	13.6%	14.9%	17.0%	20.4%	16.7%	
大工	現実的	19.3%	15.8%	22.8%	20.0%	22.2%	9.3%	
電車運転士	現実的	22.9%	24.2%	20.2%	25.9%	25.9%	13.0%	
とび	現実的	13.3%	9.4%	10.5%	12.6%	11.1%	3.7%	
酪農従事者	現実的	19.3%	18.6%	18.4%	28.9%	22.2%	14.8%	
路線バス運転手	現実的	16.9%	14.4%	14.9%	13.3%	18.5%	7.4%	
和菓子職人	現実的	33.7%	31.9%	33.3%	40.7%	35.2%	25.9%	
バイオテクノロジー研究者	研究的	39.8%	33.3%	37.7%	35.6%	29.6%	13.0%	*
気象予報士	研究的	22.9%	22.8%	24.6%	23.7%	18.5%	7.4%	
歯科医師	研究的	8.4%	14.4%	10.5%	11.1%	7.4%	9.3%	
獣医師	研究的	19.3%	21.4%	23.7%	28.9%	20.4%	13.0%	
診療放射線技師	研究的	25.3%	17.5%	23.7%	19.3%	20.4%	13.0%	
ソフトウェア開発	研究的	27.7%	31.4%	28.9%	25.2%	16.7%	25.9%	
学芸員	研究的	24.1%	26.7%	29.8%	28.9%	16.7%	16.7%	
薬剤師	研究的	37.3%	28.3%	36.8%	34.1%	31.5%	29.6%	
コピーライター	芸術的	24.1%	30.8%	24.6%	23.7%	27.8%	20.4%	
テレビカメラマン	芸術的	25.3%	25.6%	22.8%	15.6%	24.1%	11.1%	
舞台美術スタッフ	芸術的	34.9%	35.0%	39.5%	36.3%	37.0%	24.1%	
インダストリアルデザイナー	芸術的	26.5%	32.5%	42.1%	33.3%	24.1%	25.9%	
アートディレクター	芸術的	24.1%	30.3%	28.9%	25.9%	24.1%	24.1%	
ファッションデザイナー	芸術的	27.7%	31.7%	26.3%	30.4%	14.8%	18.5%	
翻訳者	芸術的	13.3%	29.2%	29.8%	28.1%	13.0%	14.8%	**
イラストレーター	芸術的	37.3%	34.2%	43.0%	37.8%	25.9%	16.7%	*
外交官	社会的	9.6%	17.5%	13.2%	18.5%	7.4%	5.6%	*
看護師	社会的	14.5%	11.9%	14.0%	14.8%	13.0%	9.3%	
カフェ店員	社会的	25.3%	27.2%	32.5%	26.7%	29.6%	20.4%	
キャリアカウンセラー	社会的	14.5%	20.3%	16.7%	9.6%	13.0%	20.4%	
小学校教員	社会的	9.6%	15.8%	13.2%	11.9%	22.2%	14.8%	
日本語教師	社会的	14.5%	17.5%	16.7%	20.7%	18.5%	16.7%	
保育士	社会的	15.7%	18.1%	18.4%	15.6%	16.7%	14.8%	
ホームヘルパー	社会的	13.3%	10.3%	14.0%	15.6%	16.7%	11.1%	
自動車営業	企業的	13.3%	11.9%	15.8%	11.9%	13.0%	13.0%	
商社営業	企業的	20.5%	25.0%	21.1%	25.2%	14.8%	24.1%	
新聞記者	企業的	15.7%	17.8%	13.2%	15.6%	14.8%	9.3%	
スーパー店長	企業的	18.1%	26.7%	25.4%	23.0%	18.5%	16.7%	
ツアーコンダクター	企業的	13.3%	18.6%	14.0%	17.0%	25.9%	9.3%	
ホテル・旅館支配人	企業的	18.1%	19.7%	17.5%	14.8%	27.8%	13.0%	
ハンバーガーショップ店長	企業的	28.9%	23.1%	28.9%	27.4%	29.6%	11.1%	
放送ディレクター	企業的	30.1%	30.8%	21.9%	20.7%	25.9%	14.8%	*
医療事務	慣習的	21.7%	19.7%	26.3%	19.3%	18.5%	13.0%	
学校事務	慣習的	22.9%	28.3%	26.3%	26.7%	29.6%	22.2%	
空港グランドスタッフ	慣習的	24.1%	21.4%	26.3%	21.5%	24.1%	16.7%	
航空管制官	慣習的	33.7%	33.9%	28.1%	35.6%	31.5%	22.2%	
司法書士	慣習的	24.1%	27.5%	22.8%	22.2%	20.4%	18.5%	
税理士	慣習的	15.7%	26.4%	21.1%	20.0%	11.1%	20.4%	
秘書	慣習的	25.3%	20.8%	20.2%	20.7%	16.7%	24.1%	
旅行会社カウンター係	慣習的	20.5%	24.4%	16.7%	23.7%	24.1%	16.7%	

※sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所は網掛け、有意に値が小さい箇所は下線を付した。

図表2-9 学歴別にみた「やりたい」と回答した割合

		中学・ 高等学校 n=179	専修学校・ 短大・ 高専 n=120	大学 (文系) n=181	大学 (理系) n=81	大学院 (文系) n=13	大学院 (理系) n=26	sig.
稲作農業者	現実的	21.8%	25.8%	23.8%	25.9%	15.4%	19.2%	
自動車組立	現実的	17.9%	14.2%	16.0%	14.8%	15.4%	19.2%	
大工	現実的	21.8%	20.0%	13.8%	17.3%	15.4%	15.4%	
電車運転士	現実的	21.8%	17.5%	29.8%	14.8%	30.8%	23.1%	
とび	現実的	11.2%	8.3%	7.7%	13.6%	7.7%	15.4%	
酪農従事者	現実的	18.4%	20.8%	18.8%	23.5%	7.7%	19.2%	
路線バス運転手	現実的	14.5%	7.5%	14.4%	16.0%	15.4%	11.5%	
和菓子職人	現実的	34.1%	42.5%	32.6%	29.6%	30.8%	30.8%	
バイオテクノロジー研究者	研究的	29.6%	30.0%	34.8%	42.0%	30.8%	50.0%	
気象予報士	研究的	17.9%	16.7%	25.4%	23.5%	38.5%	15.4%	
歯科医師	研究的	8.4%	10.0%	9.4%	22.2%	7.7%	11.5%	*
獣医師	研究的	25.1%	25.0%	19.3%	27.2%	15.4%	19.2%	
診療放射線技師	研究的	16.8%	20.8%	17.7%	25.9%	15.4%	34.6%	
ソフトウェア開発	研究的	19.0%	16.7%	38.7%	32.1%	38.5%	42.3%	***
学芸員	研究的	19.6%	20.8%	32.6%	24.7%	30.8%	23.1%	
薬剤師	研究的	24.0%	30.8%	38.7%	38.3%	30.8%	30.8%	
コピーライター	芸術的	14.5%	15.8%	34.3%	30.9%	15.4%	19.2%	***
テレビカメラマン	芸術的	15.1%	19.2%	26.0%	19.8%	15.4%	19.2%	
舞台美術スタッフ	芸術的	33.5%	37.5%	40.3%	28.4%	38.5%	15.4%	
インダストリアルデザイナー	芸術的	27.9%	31.7%	35.4%	27.2%	30.8%	26.9%	
アートディレクター	芸術的	22.3%	26.7%	29.8%	23.5%	23.1%	19.2%	
ファッションデザイナー	芸術的	21.2%	32.5%	30.9%	25.9%	23.1%	19.2%	
翻訳者	芸術的	15.6%	15.0%	29.8%	28.4%	53.8%	23.1%	***
イラストレーター	芸術的	36.3%	32.5%	37.0%	27.2%	38.5%	23.1%	
外交官	社会的	7.8%	5.8%	20.4%	17.3%	30.8%	19.2%	***
看護師	社会的	8.4%	12.5%	11.6%	14.8%	7.7%	19.2%	
カフェ店員	社会的	21.8%	35.0%	27.6%	25.9%	15.4%	23.1%	
キャリアカウンセラー	社会的	10.1%	7.5%	21.0%	19.8%	15.4%	15.4%	**
小学校教員	社会的	7.3%	6.7%	14.4%	23.5%	15.4%	15.4%	**
日本語教師	社会的	8.4%	10.8%	24.3%	21.0%	23.1%	15.4%	**
保育士	社会的	12.3%	22.5%	17.7%	22.2%	15.4%	7.7%	
ホームヘルパー	社会的	11.2%	13.3%	8.3%	16.0%	7.7%	7.7%	
自動車営業	企業的	12.3%	6.7%	14.4%	11.1%	15.4%	15.4%	
商社営業	企業的	12.8%	15.8%	25.4%	29.6%	30.8%	26.9%	**
新聞記者	企業的	9.5%	9.2%	22.1%	17.3%	30.8%	15.4%	**
スーパー店長	企業的	16.2%	19.2%	33.1%	17.3%	30.8%	19.2%	**
ツアーコンダクター	企業的	10.6%	18.3%	17.7%	9.9%	15.4%	11.5%	
ホテル・旅館支配人	企業的	9.5%	17.5%	24.3%	13.6%	15.4%	11.5%	**
ハンバーガーショップ店長	企業的	21.8%	29.2%	22.1%	23.5%	15.4%	26.9%	
放送ディレクター	企業的	17.3%	24.2%	32.0%	22.2%	38.5%	23.1%	*
医療事務	慣習的	11.7%	20.8%	20.4%	24.7%	7.7%	19.2%	
学校事務	慣習的	16.8%	15.8%	37.0%	27.2%	46.2%	26.9%	***
空港グランドスタッフ	慣習的	10.6%	30.0%	24.9%	19.8%	15.4%	19.2%	**
航空管制官	慣習的	20.7%	28.3%	39.8%	32.1%	53.8%	30.8%	**
司法書士	慣習的	16.8%	13.3%	35.4%	22.2%	53.8%	19.2%	***
税理士	慣習的	12.8%	9.2%	37.0%	21.0%	30.8%	19.2%	***
秘書	慣習的	14.5%	18.3%	28.7%	17.3%	38.5%	15.4%	**
旅行会社カウンター係	慣習的	11.7%	24.2%	26.0%	18.5%	23.1%	19.2%	*

※sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所に網掛け、有意に値が小さい箇所に下線を付した。

図表2-10には、現在の状況（雇用形態等）別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。表に示されるとおり、0.1%水準で統計的に有意な差がみられた職業は多かった。具体的には「コピーライター」「テレビカメラマン」「学校事務」「航空管制官」「自動車営業」「商社営業」「新聞記者」「ツアーコンダクター」「放送ディレクター」「ソフトウェア開発」「稲作農業者」「路線バス運転手」「外交官」「キャリアカウンセラー」「小学校教員」などであった。いずれの職業も、概して「正社員」「学生」で値が高く、「非正社員」「その他」で値が低かった。ただし、「正社員」はおおむね「慣習的」「研究的」「現実的」な職業で値が高く、「学生」は「芸術的」な職業で値が高いという大まかな傾向はみられた。これらの結果についても、背景には学歴の要因が介在していることが推察される。「正社員」は大卒者が多く（本調査における「正社員」の大卒比率は65.3%、「非正社員」は30.1%、「その他」は38.6%）、「学生」は全て大学（一部、短大）在学中のため、「正社員」「学生」と「非正社員」「その他」では学歴が異なる。この場合、学歴がどのように職業興味に影響を与えたかは本データだけでは定かではないが、仮説としては、大卒者が中心の「正社員」「学生」は職業興味の範囲が広く、その背景にはある種の有能感・万能感（実際の実力や実績とは別に）がある可能性が推察される。逆に、「非正社員」「その他」では実際以上に職業興味の範囲が狭くなっており、様々な職業に就きうるという可能性も狭く認識している可能性がある。また「非正社員」「その他」は、そもそも職業やキャリアそのものに関心がなく、むしろ広い意味でのワークライフバランスを重視しているために（例：仕事よりは家庭や家族を大切にしたい等）、職業全般に対して相対的に興味を持っていない可能性も考えられる。ただし、以上は、本データから推測される可能性を仮説として指摘しているにとどまり、本データの結果だけからは確定的なことは言えないことは改めて強調しておきたい。

図表2-11には、職業別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。0.1%水準で統計的に有意で職業別の差がみられたのは「学校事務」「秘書」であった。また、1%水準で統計的に有意で職業別の差がみられたのは「アートディレクター」「航空管制官」「税理士」「スーパー店長」「キャリアカウンセラー」であった。これらは、おおむね「事務」で値が高かった（一部「管理」も高かった）。先述した「大学（文系）」が最終学歴である回答者が「事務」及び「管理」には多く含まれることと関連が深いことが推察される。その他、「サービス」では「アートディレクター」、「生産工程」では「大工」、「建設・輸送」では「とび」の値が高かったが、本データだけからは解釈が不明である。

図表2-10 現在の状況(雇用形態等)別にみた「やりたい」と回答した割合

		正社員 n=288	非正社員 n=126	学生 n=207	その他 n=179	sig.
稲作農業者	現実的	31.3%	<u>15.1%</u>	22.7%	<u>16.2%</u>	***
自動車組立	現実的	21.5%	<u>9.5%</u>	14.5%	11.7%	**
大工	現実的	23.6%	<u>9.5%</u>	17.4%	15.1%	**
電車運転士	現実的	29.2%	16.7%	24.6%	<u>16.2%</u>	**
とび	現実的	14.9%	7.1%	10.6%	<u>4.5%</u>	**
酪農従事者	現実的	26.4%	14.3%	22.7%	<u>12.3%</u>	**
路線バス運転手	現実的	18.8%	<u>7.9%</u>	18.4%	<u>7.3%</u>	***
和菓子職人	現実的	36.5%	27.0%	31.9%	35.8%	
バイオテクノロジー研究者	研究的	39.2%	<u>23.8%</u>	32.4%	31.8%	*
気象予報士	研究的	25.7%	<u>13.5%</u>	25.6%	17.3%	**
歯科医師	研究的	13.5%	7.9%	14.0%	9.5%	
獣医師	研究的	25.3%	21.4%	19.8%	20.1%	
診療放射線技師	研究的	26.0%	16.7%	17.9%	<u>12.3%</u>	**
ソフトウェア開発	研究的	35.8%	<u>17.5%</u>	30.9%	<u>20.7%</u>	***
学芸員	研究的	24.7%	19.8%	30.0%	27.4%	
薬剤師	研究的	37.2%	27.0%	30.9%	27.4%	
コピーライター	芸術的	28.8%	<u>15.9%</u>	39.1%	<u>18.4%</u>	***
テレビカメラマン	芸術的	26.7%	<u>14.3%</u>	30.0%	<u>12.3%</u>	***
舞台美術スタッフ	芸術的	34.4%	36.5%	37.2%	33.5%	
インダストリアルデザイナー	芸術的	34.4%	<u>21.4%</u>	37.7%	30.7%	*
アートディレクター	芸術的	27.8%	<u>20.6%</u>	35.7%	24.0%	*
ファッションデザイナー	芸術的	29.2%	27.8%	32.4%	22.3%	
翻訳者	芸術的	26.4%	<u>15.9%</u>	33.3%	21.2%	**
イラストレーター	芸術的	29.9%	35.7%	37.7%	38.0%	
外交官	社会的	19.8%	9.5%	18.4%	<u>6.1%</u>	***
看護師	社会的	13.9%	12.7%	16.9%	<u>6.7%</u>	*
カフェ店員	社会的	28.8%	25.4%	30.0%	23.5%	
キャリアカウンセラー	社会的	21.9%	<u>7.1%</u>	23.2%	<u>8.4%</u>	***
小学校教員	社会的	17.4%	<u>7.1%</u>	21.7%	<u>6.7%</u>	***
日本語教師	社会的	18.1%	11.9%	22.2%	15.6%	
保育士	社会的	17.7%	15.1%	16.9%	17.9%	
ホームヘルパー	社会的	14.6%	9.5%	15.9%	<u>7.3%</u>	*
自動車営業	企業的	18.1%	<u>4.8%</u>	15.5%	<u>6.7%</u>	***
商社営業	企業的	29.2%	<u>12.7%</u>	31.4%	<u>11.7%</u>	***
新聞記者	企業的	21.5%	<u>7.9%</u>	18.4%	<u>8.9%</u>	***
スーパー店長	企業的	24.3%	19.8%	28.0%	20.7%	
ツアーコンダクター	企業的	19.4%	<u>9.5%</u>	24.2%	<u>10.1%</u>	***
ホテル・旅館支配人	企業的	21.2%	13.5%	24.2%	<u>11.2%</u>	**
ハンバーガーショップ店長	企業的	26.4%	23.8%	29.0%	18.4%	
放送ディレクター	企業的	32.6%	<u>15.9%</u>	32.9%	<u>16.2%</u>	***
医療事務	慣習的	22.6%	14.3%	26.1%	14.0%	**
学校事務	慣習的	33.3%	<u>16.7%</u>	31.9%	<u>17.9%</u>	***
空港グランドスタッフ	慣習的	25.3%	18.3%	27.1%	<u>14.5%</u>	**
航空管制官	慣習的	42.0%	<u>18.3%</u>	38.2%	<u>20.1%</u>	***
司法書士	慣習的	30.2%	<u>14.3%</u>	28.0%	<u>18.4%</u>	**
税理士	慣習的	27.8%	15.9%	24.6%	<u>14.0%</u>	**
秘書	慣習的	24.0%	20.6%	22.7%	15.1%	
旅行会社カウンター係	慣習的	25.0%	<u>11.9%</u>	29.0%	17.3%	**

※sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所は網掛け、有意に値が小さい箇所は下線を付した。なお、「その他」の内訳は本データでは不明だが、おおむね主婦、学生（大学生以外）、失業者、無業者等が該当すると推察される。

図表2-11 職業別にみた「やりたい」と回答した割合

		管理 n=22	専門・ 技術 n=73	事務 n=126	販売 n=43	サービス n=63	生産 工程 n=30	建設・ 輸送 n=28	その他 n=29	sig.
稲作農業者	現実的	22.7%	34.2%	23.0%	11.6%	25.4%	36.7%	35.7%	27.6%	
自動車組立	現実的	22.7%	23.3%	12.7%	9.3%	14.3%	26.7%	32.1%	20.7%	
大工	現実的	18.2%	24.7%	13.5%	9.3%	17.5%	36.7%	25.0%	27.6%	*
電車運転士	現実的	36.4%	31.5%	23.0%	18.6%	20.6%	20.0%	28.6%	34.5%	
とび	現実的	22.7%	13.7%	8.7%	4.7%	12.7%	23.3%	25.0%	6.9%	*
酪農従事者	現実的	31.8%	21.9%	23.0%	18.6%	23.8%	30.0%	25.0%	10.3%	
路線バス運転手	現実的	22.7%	16.4%	14.3%	4.7%	12.7%	20.0%	25.0%	20.7%	
和菓子職人	現実的	36.4%	34.2%	33.3%	32.6%	38.1%	40.0%	25.0%	24.1%	
バイオテクノロジー研究者	研究的	27.3%	46.6%	34.1%	20.9%	30.2%	36.7%	25.0%	48.3%	
気象予報士	研究的	27.3%	26.0%	26.2%	18.6%	15.9%	13.3%	14.3%	24.1%	
歯科医師	研究的	9.1%	13.7%	9.5%	7.0%	15.9%	13.3%	17.9%	10.3%	
獣医師	研究的	22.7%	19.2%	27.8%	20.9%	22.2%	33.3%	28.6%	17.2%	
診療放射線技師	研究的	27.3%	30.1%	24.6%	16.3%	22.2%	23.3%	10.7%	20.7%	
ソフトウェア開発	研究的	36.4%	38.4%	35.7%	20.9%	22.2%	30.0%	14.3%	27.6%	
学芸員	研究的	13.6%	24.7%	28.6%	20.9%	23.8%	13.3%	21.4%	17.2%	
薬剤師	研究的	36.4%	35.6%	42.1%	30.2%	27.0%	36.7%	17.9%	27.6%	
コピーライター	芸術的	18.2%	24.7%	35.7%	20.9%	19.0%	13.3%	10.7%	27.6%	*
テレビカメラマン	芸術的	31.8%	21.9%	28.6%	9.3%	25.4%	20.0%	17.9%	17.2%	
舞台美術スタッフ	芸術的	27.3%	32.9%	41.3%	30.2%	42.9%	26.7%	21.4%	31.0%	
インダストリアルデザイナー	芸術的	31.8%	27.4%	35.7%	27.9%	33.3%	26.7%	17.9%	27.6%	
アートディレクター	芸術的	18.2%	17.8%	31.7%	18.6%	38.1%	16.7%	25.0%	17.2%	**
ファッションデザイナー	芸術的	22.7%	20.5%	34.1%	27.9%	41.3%	20.0%	17.9%	24.1%	
翻訳者	芸術的	31.8%	23.3%	33.3%	18.6%	17.5%	16.7%	7.1%	13.8%	*
イラストレーター	芸術的	18.2%	28.8%	34.9%	32.6%	42.9%	20.0%	35.7%	17.2%	
外交官	社会的	36.4%	17.8%	18.3%	11.6%	12.7%	10.0%	17.9%	13.8%	
看護師	社会的	4.5%	17.8%	13.5%	0.0%	19.0%	13.3%	17.9%	13.8%	
カフェ店員	社会的	40.9%	28.8%	27.0%	27.9%	36.5%	10.0%	21.4%	24.1%	
キャリアカウンセラー	社会的	36.4%	15.1%	26.2%	9.3%	12.7%	10.0%	7.1%	10.3%	**
小学校教員	社会的	18.2%	17.8%	15.9%	9.3%	11.1%	6.7%	14.3%	17.2%	
日本語教師	社会的	27.3%	19.2%	17.5%	20.9%	15.9%	0.0%	3.6%	17.2%	
保育士	社会的	9.1%	15.1%	23.0%	16.3%	17.5%	16.7%	10.7%	6.9%	
ホームヘルパー	社会的	18.2%	15.1%	13.5%	9.3%	17.5%	6.7%	10.7%	6.9%	
自動車営業	企業的	22.7%	11.0%	12.7%	2.3%	19.0%	13.3%	17.9%	24.1%	
商社営業	企業的	36.4%	24.7%	31.0%	20.9%	25.4%	20.0%	3.6%	10.3%	*
新聞記者	企業的	36.4%	23.3%	17.5%	11.6%	14.3%	13.3%	14.3%	10.3%	
スーパー店長	企業的	18.2%	15.1%	34.9%	27.9%	23.8%	6.7%	7.1%	17.2%	**
ツアーコンダクター	企業的	36.4%	15.1%	14.3%	9.3%	23.8%	10.0%	14.3%	17.2%	
ホテル・旅館支配人	企業的	27.3%	13.7%	23.0%	11.6%	25.4%	10.0%	7.1%	24.1%	
ハンバーガーショップ店長	企業的	36.4%	24.7%	22.2%	27.9%	31.7%	16.7%	28.6%	24.1%	
放送ディレクター	企業的	40.9%	21.9%	32.5%	16.3%	31.7%	26.7%	28.6%	17.2%	
医療事務	慣習的	27.3%	20.5%	23.0%	14.0%	22.2%	20.0%	7.1%	17.2%	
学校事務	慣習的	54.5%	28.8%	41.3%	14.0%	15.9%	13.3%	17.9%	24.1%	***
空港グランドスタッフ	慣習的	36.4%	23.3%	29.4%	18.6%	28.6%	6.7%	10.7%	10.3%	*
航空管制官	慣習的	63.6%	41.1%	38.9%	18.6%	30.2%	20.0%	28.6%	34.5%	**
司法書士	慣習的	40.9%	24.7%	31.7%	16.3%	20.6%	23.3%	21.4%	17.2%	
税理士	慣習的	27.3%	27.4%	35.7%	20.9%	9.5%	20.0%	10.7%	17.2%	**
秘書	慣習的	22.7%	12.3%	43.7%	18.6%	14.3%	10.0%	3.6%	17.2%	***
旅行会社カウンター係	慣習的	31.8%	15.1%	27.8%	16.3%	25.4%	10.0%	14.3%	13.8%	

※sig.は有意水準。\*\*\* $p < .001$  \*\* $p < .01$  \* $p < .05$ 。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所(網掛け、有意に値が小さい箇所に下線を付した。なお、「事務」以外は $n < 100$ と少ないので解釈に留意すべきである。

図表2-12には、直近1年以内の個人年収（税込み）別にみた「やりたい」と回答した割合を示した。0.1%水準で統計的に有意で各職業別の差がみられたのは「ファッションデザイナー」「イラストレーター」「航空管制官」「ソフトウェア開発」「電車運転士」「外交官」であった。概して「ファッションデザイナー」「イラストレーター」は年収が低いほど値が高く、それ以外の「航空管制官」「ソフトウェア開発」「電車運転士」「外交官」は年収が高いほど値が高かった。年収別の職業興味は、おおむね性別の職業興味と関連していると想定される。先に示したとおり、「ファッションデザイナー」「イラストレーター」は女性が選好する職業であり、「ソフトウェア開発」「電車運転士」「外交官」は男性が選好する職業であった。本データでは男性と女性では年収に大きな差がみられているため（年収300万円以上：男性48.1%、女性20.9%）、年収が低い回答者が興味を示した職業は女性が興味を示す職業でもあり、逆に、年収が高い回答者が興味を示した職業は男性が興味を示す職業であることが示されたと言える。ただし例外はあり、「航空管制官」は年収が高い回答者が興味を示したが、必ずしも男性が興味を示した職業ではなかった。年収別の職業興味の背後にさらなる要因が関わっている可能性を示唆できる。

なお、図表2-12における直近1年以内の個人年収（税込み）が「なし」の者は、図表2-10で現在の状況（雇用形態等）を「大学生」「その他」と回答した者で9割以上を占めており、内訳は「大学生」が35.6%、「その他」が59.6%であった。さらに、その「その他」の内訳については、図表2-10で注記したとおり本データでは不明だが、おおむね主婦、学生（大学生以外）、失業者、無業者等が該当すると推察される。まとめると、直近1年以内の個人年収（税込み）が「なし」の者とは「大学生」「主婦」「大学生以外の学生」「失業者・無業者」が該当すると考えられる。

図表2-12 直近1年以内の個人年収(税込み)にみた「やりたい」と回答した割合

		なし n=146	100万円 未満 n=219	100～ 300万円 n=160	300～ 500万円 n=161	500万円 以上 n=114	sig.
稲作農業者	現実的	17.1%	23.7%	20.6%	28.0%	26.3%	
自動車組立	現実的	11.0%	14.2%	11.9%	22.4%	20.2%	*
大工	現実的	14.4%	17.8%	11.3%	26.1%	20.2%	**
電車運転士	現実的	10.3%	23.7%	20.6%	28.6%	34.2%	***
とび	現実的	5.5%	8.2%	8.1%	16.1%	14.9%	**
酪農従事者	現実的	16.4%	18.7%	21.9%	22.4%	23.7%	
路線バス運転手	現実的	7.5%	13.2%	13.8%	19.9%	18.4%	*
和菓子職人	現実的	34.2%	36.5%	31.3%	33.5%	30.7%	
バイオテクノロジー研究者	研究的	26.0%	30.1%	31.9%	39.1%	43.0%	*
気象予報士	研究的	15.1%	23.3%	21.3%	28.0%	20.2%	
歯科医師	研究的	10.3%	8.7%	10.0%	16.8%	15.8%	
獣医師	研究的	17.8%	20.1%	25.6%	24.8%	22.8%	
診療放射線技師	研究的	15.8%	16.0%	19.4%	28.0%	18.4%	*
ソフトウェア開発	研究的	17.8%	25.6%	26.9%	32.9%	42.1%	***
学芸員	研究的	24.7%	30.6%	25.6%	25.5%	19.3%	
薬剤師	研究的	32.2%	26.0%	34.4%	37.3%	30.7%	
コピーライター	芸術的	25.3%	30.6%	21.3%	27.3%	30.7%	
テレビカメラマン	芸術的	11.6%	23.7%	24.4%	26.1%	25.4%	*
舞台美術スタッフ	芸術的	29.5%	41.1%	31.9%	39.1%	30.7%	
インダストリアルデザイナー	芸術的	26.0%	37.4%	28.1%	36.0%	31.6%	
アートディレクター	芸術的	19.2%	37.0%	25.0%	27.3%	26.3%	**
ファッションデザイナー	芸術的	21.9%	33.3%	28.7%	36.0%	14.9%	***
翻訳者	芸術的	24.7%	24.7%	22.5%	29.2%	26.3%	
イラストレーター	芸術的	38.4%	42.5%	30.6%	36.6%	17.5%	***
外交官	社会的	6.2%	16.0%	9.4%	20.5%	22.8%	***
看護師	社会的	11.6%	10.0%	15.0%	18.0%	9.6%	
カフェ店員	社会的	26.0%	29.7%	29.4%	28.0%	21.1%	
キャリアカウンセラー	社会的	12.3%	16.0%	12.5%	21.1%	24.6%	*
小学校教員	社会的	9.6%	13.7%	15.0%	15.5%	20.2%	
日本語教師	社会的	17.1%	16.9%	18.1%	17.4%	19.3%	
保育士	社会的	18.5%	15.5%	19.4%	16.1%	16.7%	
ホームヘルパー	社会的	10.3%	12.3%	13.1%	13.7%	13.2%	
自動車営業	企業的	5.5%	13.2%	9.4%	17.4%	19.3%	**
商社営業	企業的	13.0%	25.1%	18.1%	29.8%	30.7%	**
新聞記者	企業的	9.6%	15.1%	13.8%	20.5%	21.1%	*
スーパー店長	企業的	21.9%	26.9%	20.0%	27.3%	20.2%	
ツアーコンダクター	企業的	9.6%	19.2%	16.3%	19.3%	20.2%	
ホテル・旅館支配人	企業的	15.1%	19.6%	18.1%	21.1%	17.5%	
ハンバーガーショップ店長	企業的	24.0%	23.7%	28.7%	23.6%	24.6%	
放送ディレクター	企業的	15.8%	31.1%	25.0%	30.4%	27.2%	*
医療事務	慣習的	17.8%	22.4%	18.1%	19.9%	22.8%	
学校事務	慣習的	24.0%	23.7%	26.9%	28.6%	34.2%	
空港グランドスタッフ	慣習的	18.5%	20.1%	26.3%	22.4%	25.4%	
航空管制官	慣習的	18.5%	31.5%	26.3%	38.5%	51.8%	***
司法書士	慣習的	17.8%	22.8%	26.3%	24.2%	34.2%	*
税理士	慣習的	15.1%	18.3%	22.5%	26.7%	30.7%	*
秘書	慣習的	14.4%	21.0%	23.8%	26.1%	19.3%	
旅行会社カウンター係	慣習的	16.4%	24.7%	22.5%	23.0%	23.7%	

※sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。調整済み残差が5%水準で統計的に有意に値が大きい箇所(網掛け)、有意に値が小さい箇所(下線を付した)。なお、「なし」は、図表2-10で「大学生」「その他」と回答した者で9割以上を占めており、内訳は「大学生」が35.6%、「その他」が59.6%であった。

## 引用文献

Holland, J. L. (1959). A theory of vocational choice. *Journal of Counseling Psychology*, 6(1), 35-45.

## 第3章 職業興味の構造の検討

### 第1節 信頼性係数及び内的一貫性

OHBY カードは、職業レディネス・テストや VPI と同様、ホルランドの6類型 (RIASEC ; Holland, 1959) で職業興味を示す。すなわち、カードを使用する過程で、使用者の職業興味をホルランドの6類型によってある程度判定できることを目的の1つとしている。

そこで、OHBY カード改訂版においても6類型に分かれるか検討した。具体的には、6類型に分けた場合の「内的一貫性」(≡信頼性)をクロンバックの $\alpha$ 係数を求めて検討した。ここで $\alpha$ 係数とは信頼性係数のことであり、当該項目群に対する回答がどの程度安定しているか=信頼できるかを示す。

図表3-1には、各興味領域別の $\alpha$ 係数、修正済み項目合計相関 (I-T 相関)、当該項目が削除された場合の $\alpha$ 係数を示した。その結果、現実的興味領域 $\alpha = .789$ 、研究的興味領域 $\alpha = .752$ 、芸術的興味領域 $\alpha = .812$ 、社会的興味領域 $\alpha = .740$ 、企業的興味領域 $\alpha = .772$ 、慣習的興味領域 $\alpha = .795$ であり、十分に $\alpha$ 係数の値は高かった。また、項目合計相関(その項目とその項目以外の合計点との相関)に着目した結果、「獣医師」 $r=0.369$ 、「ソフトウェア開発」 $r=0.387$ 、「外交官」 $r=0.386$ など、やや値が低いものがみられた。項目合計相関は、当該職業とその職業以外の合計との相関係数が低いこと、すなわち、その職業が同じ領域に含まれている職業とどの程度一貫した結果を示しているかを表す指標である。したがって、「獣医師」「ソフトウェア開発」「外交官」は領域内においてやや一貫していないと解釈しうる。しかしながら、仮にその項目を除いた場合に $\alpha$ 係数が高まるか(=「項目が削除された場合の $\alpha$ 」)に着目した場合、削除しても $\alpha$ 係数は高まらないことが示されている。具体的には、例えば、図表3-1で「獣医師」の修正済み項目合計相関は0.369であるが、この項目が削除された場合の $\alpha$ 係数は0.740である。しかし、「研究的興味領域」の $\alpha$ 係数は.752であることから、仮に「獣医師」を削除したとしても $\alpha$ 係数が高くはならない。むしろ逆に0.752から0.740へと低くなってしまうことが分かる。

以上のことから、おおむね図表3-1に示されるとおり、十分な $\alpha$ 係数が示され、したがって、OHBY カード改訂版で測定された各領域の職業興味に、一定程度、内的一貫性(≡信頼性)があることが確認されたと結論づけることができる。

図表3-1 各興味領域別の $\alpha$ 係数、修正済み項目合計相関(I-T相関)

現実的興味領域 ( <b>R</b> ealistic) Cronbach's $\alpha$ =.789	修正済み 項目合計 相関	項目が 削除された 場合の $\alpha$
稲作農業者	0.550	0.756
自動車組立	0.546	0.758
大工	0.574	0.753
電車運転士	0.419	0.779
とび	0.490	0.769
酪農従事者	0.539	0.759
路線バス運転手	0.455	0.772
和菓子職人	0.434	0.780

社会的興味領域 ( <b>S</b> ocial) Cronbach's $\alpha$ =.740	修正済み 項目合計 相関	項目が 削除された 場合の $\alpha$
外交官	0.386	0.722
看護師	0.428	0.714
カフェ店員	0.429	0.716
キャリアカウンセラー	0.416	0.716
小学校教員	0.482	0.704
日本語教師	0.482	0.703
保育士	0.421	0.715
ホームヘルパー	0.436	0.713

研究的興味領域 ( <b>I</b> nvestigative) Cronbach's $\alpha$ =.752	修正済み 項目合計 相関	項目が 削除された 場合の $\alpha$
バイオテクノロジー研究者	0.499	0.716
気象予報士	0.477	0.720
歯科医師	0.400	0.735
獣医師	0.369	0.740
診療放射線技師	0.499	0.717
ソフトウェア開発	0.387	0.738
学芸員	0.419	0.731
薬剤師	0.539	0.707

企業的興味領域 ( <b>E</b> nterprising) Cronbach's $\alpha$ =.772	修正済み 項目合計 相関	項目が 削除された 場合の $\alpha$
自動車営業	0.511	0.743
商社営業	0.421	0.757
新聞記者	0.457	0.750
スーパー店長	0.463	0.749
ツアーコンダクター	0.516	0.740
ホテル・旅館支配人	0.595	0.727
ハンバーガーショップ店長	0.401	0.761
放送ディレクター	0.449	0.752

芸術的興味領域 ( <b>A</b> rtistic) Cronbach's $\alpha$ =.812	修正済み 項目合計 相関	項目が 削除された 場合の $\alpha$
コピーライター	0.409	0.807
テレビカメラマン	0.434	0.804
舞台美術スタッフ	0.564	0.785
インダストリアルデザイナー	0.556	0.787
アートディレクター	0.630	0.776
ファッションデザイナー	0.556	0.787
翻訳者	0.515	0.793
イラストレーター	0.553	0.787

慣習的興味領域 ( <b>C</b> onventional) Cronbach's $\alpha$ =.795	修正済み 項目合計 相関	項目が 削除された 場合の $\alpha$
医療事務	0.468	0.778
学校事務	0.582	0.760
空港グランドスタッフ	0.485	0.775
航空管制官	0.451	0.782
司法書士	0.549	0.765
税理士	0.544	0.766
秘書	0.457	0.779
旅行会社カウンター係	0.492	0.774

## 第2節 OHBY カードによる職業興味の構造の検討

上述のとおり、OHBY カード改訂版をホルランドの6類型に分類した場合の内的一貫性（＝信頼性）は、一定程度有していることを確認することができた。

ただし、1950年代に提案されたホルランドの6類型以外に「職業興味の構造モデル」には様々なものがある。その代表的なものとして、まず「DPTモデル」がある。このモデルでは、職業興味の構造をDPTの3つの志向性から捉える。「D」は「D志向(Data)」であり、対情報志向を示す。「P」は「P志向(People)」であり、対人志向を示す。「T」は「T志向(Thing)」であり、対物志向を示す。この分類は、US Department of Labor (1965)（アメリカ労働省職業辞典第3版）由来のものであり、日本でも古くから知られている。例えば、職業レディネス・テスト（VRT: Vocational Readiness Test）では、6つの興味領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）の興味その他、基礎的志向性として「対情報」「対人」「対物」が測定される。

また、もう1つ代表的なものとして「DPTIモデル」もある。このモデルは、ホルランドの6類型RIASECをさらに二次因子分析した結果として示されるものである(Prediger, 1982)。上記のDPTにI志向(Idea)が加わる。I志向はアイデア志向のことであり、おもに創造的な職業、芸術的な職業が該当する。

さらに、職業興味の構造に関する学術的な研究では「球状モデル」(Tracey, 2002)も知られている。これはRIASECの6類型に「職業威信」を加えて3次元の球状モデルにしたものである。これは職業に対する興味とは独立の次元として職業の「良い－悪い」の軸を設定するモデルである。当然ながら職業に「良い－悪い」の次元を持ち込むことは望ましくなく、問題のある職業の見方というべきだが、一方で「職業威信」の軸そのものは国や時代を超えて人間に普遍的に備わっている職業認知でもあり、そうした人間の職業認知の実態を踏まえたモデルとなっている。

これらの職業興味の構造モデルを検討するためにダミー変数（0－1の変数）を用いた因子分析の手法を用いた。様々な因子分析手法（最尤法、主因子法、主成分法×回転なし、バリマックス回転、プロマックス回転）と因子数の指定（3～6因子まで）によって検討を行った。

図表3－2には、各職業に対する興味（「やりたい」という回答）の因子分析（最尤法プロマックス回転、因子数指定なし）の結果を示した。9因子まで抽出された。第1因子は「税理士」「司法書士」「ソフトウェア開発」などの職業の因子負荷量が高く、様々な解釈が可能であるが、ここまでの議論の中では「D志向(Data)＝対情報志向」の職業と解釈することができる。以下、第2因子は「カフェ店員」「ハンバーガーショップ店員」「空港グランドスタッフ」などの職業の因子負荷量が高く、「P志向(People)＝対人志向」の職業と解釈することができる。第3因子は「イラストレーター」「舞台美術スタッフ」「学芸員」などの職業の因子負荷量が高く、「I志向(Idea)＝アイデア志向」の職業と解釈することができる。第4因

子は「自動車組立」「大工」「とび」の因子負荷量が高く、「T志向(Thing)=対物志向」の職業と解釈することができる。興味深いのは、第5因子以下は、おもに産業別の職業の分類を示す点である。例えば、第5因子は「診療放射線技師」「看護師」「薬剤師」などの職業の因子負荷量が高く、明確に「医療」の職業が該当している。以下、第6因子は「放送」、第7因子は「農業」「畜産」、第8因子は「教育」、第9因子は「運輸」に科学的な職業が加わったものとみなすことができる。

図表3-3には、各職業に対する興味（「やりたい」という回答）の因子分析（最尤法プロマックス回転）を6因子を指定して行った結果を示した。これは6因子を指定することによって、ホルランドの6類型が確認できるかを検討したものである。各因子で因子負荷量の大きな職業に着目すると、第1因子から第3因子までは上で示した因子数指定なしの結果と同様であり、第1因子は「D志向(Data)=対情報志向」、第2因子は「P志向(People)=対人志向」、第3因子は「I志向(Idea)=アイディア志向」の職業と解釈できそうであった。第4因子は、因子数指定なしの因子分析の第4因子と第7因子が統合された因子であった。同様に第5因子は因子数指定なしの第6因子「放送」、第6因子は因子数指定なしの第5因子「医療」と同一であった。ホルランドの6類型が観察されるか否かという観点からは、おおむね第3因子が「芸術的」職業、第4因子が「現実的」職業と解釈される結果であった。しかし、それ以外の因子ではホルランドの6類型が明確には観察されなかった。これは他の因子分析の手法（主成分法、主因子法、バリマックス回転など）で行った場合も同様であった。OHBYカードを用いて職業興味を測定した本データに限ってみた場合、職業興味の構造はホルランドの6類型では表されなかったと言える。

図表3-4には、各職業に対する興味（「やりたい」という回答）の因子分析（最尤法プロマックス回転）を4因子を指定して行った結果を示した。本データで、様々な手法及び因子数の指定で因子分析を行った結果、最も明確な解釈が可能であり、ある程度まで説明率が高く、妥当な結果と解釈できたのは、この4因子を指定した場合の結果であった。ここまでの2つの因子分析の解釈と同様、第1因子は「D志向(Data)=対情報志向」、第2因子は「P志向(People)=対人志向」、第4因子は「I志向(Idea)=アイディア志向」と解釈でき、かつ第3因子は「現実的」職業が集まったが、「T志向(Thing)=モノ志向」とも解釈できる。すなわち、この因子分析結果は先述した各種の職業興味の構造モデルの中では「D P T Iモデル」と解釈することができる結果となっている。

以上のことから、OHBYカードを用いて測定した本データによる職業興味の構造モデルは、ホルランドの6類型 RIASEC をさらに二次因子分析した Prediger (1982) による「D P T Iモデル」が最も妥当であると、一応、結論づけることができる。

ただし、この4因子指定の因子分析結果の第1因子と第2因子を平面上にプロットした場合、図表3-5のような結果となった。図で示されるとおり、「D志向(Data)=対情報志向」と「P志向(People)=対人志向」はひとまとまりの職業グループとして観察されたが、「I志

向(Idea)＝アイデア志向」と「T志向(Thing)＝モノ志向」の職業は混ざり合っており、それぞれ独立した職業グループとして観察されなかった。むしろ「I志向(Idea)＝アイデア志向」は「T志向(Thing)＝モノ志向」に吸収されて、ひとまとまりの大きな「T志向(Thing)＝モノ志向」の職業グループを構成したと解釈される結果となった。すなわち、先の4因子指定の因子分析の第1因子と第2因子に着目した場合、むしろ、アメリカ労働省職業辞典や職業レディネス・テストでよく知られる「DPTモデル」が妥当であるという結果となった。

このように OHBY カードを用いて測定した本データに限って見た場合、職業興味の構造モデルは多様な側面をもっていることが指摘できる。従来から日本国内のみならず世界的にも用いられ続けている「ホルランドの6類型」、本データを厳密に分析した場合に最も妥当な解釈となる「DPTIモデル」、しかし、それを分かりやすく表現するために平面上にプロットした場合に浮かび上がる「DPTモデル」は、それぞれある側面から見た場合、いずれも妥当な職業興味の構造モデルとすることができる。学術的には、どの職業興味モデルが最も妥当であり、適切であるのかという問題設定が可能であり、今後も引き続き検討すべき課題である。

しかしながら、実用的には、むしろ職業興味は多様な構造モデルで表現できるということを活かして、目的に応じた多様な形で活用していくということを強調していくべきかと思われる。例えば、利用者と職業のマッチングを目的とした場合には従来から実践が蓄積されてきた「ホルランドの6類型」で職業興味を捉えることは、引き続き有効である。しかしながら、厳密な形で利用者と職業の対応を考える際にはよりシンプルな「DPTIモデル」で大まかに職業興味を捉える実践の可能性が考えられる。また、キャリア教育等の場面で子どもや若者の職業理解を促すために平易かつ明解な形で職業を提示したいといった場合には、「DPTモデル」に基づいて2次元の平面上に職業興味のグループごとに職業を提示すること等が有益な実践となる可能性がある。

いずれにしても、カードの使用目的に応じて、様々な職業興味の構造モデルを活用できるように手引き等で工夫するなど、具体的な実践につながる形で本研究における知見を活用すべきであると思われる。今後、よりいっそうの検討が求められる。

図表3-2 各職業に対する興味(「やりたい」という回答)の  
因子分析(最尤法プロマックス回転、因子数指定なし)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
税理士	慣習的	.817	-.019	-.095	.025	.033	-.040	.052	-.045	-.053
司法書士	慣習的	.698	-.066	-.069	.073	.129	.164	.013	-.116	-.098
ソフトウェア開発	研究的	.690	-.158	.046	.099	-.089	-.071	-.013	-.054	.150
コピーライター	芸術的	.664	.012	.060	-.138	-.076	-.052	.068	.159	-.036
翻訳者	芸術的	.557	-.067	.225	-.070	-.033	-.121	.083	.205	.026
商社営業	企業的	.557	.040	-.008	-.048	-.029	.045	-.060	.032	.077
キャリアカウンセラー	社会的	.555	.058	-.030	.121	.117	.053	-.126	.051	-.146
秘書	慣習的	.486	.292	-.055	.010	-.016	-.125	-.026	-.076	.021
学校事務	慣習的	.470	.342	-.143	-.050	.005	-.024	-.015	-.002	.085
外交官	社会的	.389	-.143	-.078	-.027	.008	.282	.097	.212	.011
新聞記者	企業的	.325	-.041	.013	.105	.090	.251	.063	.111	-.089
カフェ店員	社会的	-.004	.774	.021	.019	-.018	.039	.068	-.103	-.124
ハンバーガーショップ店長	企業的	-.017	.696	-.021	.050	.056	-.036	.187	-.092	-.084
空港グランドスタッフ	慣習的	-.040	.554	-.067	-.100	.078	.018	-.142	.100	.285
ホテル・旅館支配人	企業的	.098	.534	.009	-.121	.005	.119	-.016	.177	-.012
旅行会社カウンター係	慣習的	.134	.522	.040	-.046	-.044	.107	-.030	.065	.006
保育士	社会的	-.079	.444	.055	-.047	.075	-.057	.134	.181	-.089
ツアーコンダクター	企業的	-.115	.398	.012	.075	-.057	.068	-.026	.323	.103
和菓子職人	現実的	-.116	.398	.135	.137	.022	-.011	.349	-.112	.005
イラストレーター	芸術的	-.125	-.111	.827	.021	.127	-.056	.006	.036	-.068
舞台美術スタッフ	芸術的	-.047	.066	.632	-.091	-.045	.049	.102	-.030	.092
学芸員	研究的	.119	.003	.593	.000	-.008	-.042	-.046	.117	-.018
インダストリアルデザイナー	芸術的	.162	.024	.542	.156	-.088	-.018	-.080	-.085	.067
ファッションデザイナー	芸術的	-.119	.130	.541	-.016	.022	.258	.006	-.036	-.049
アートディレクター	芸術的	.050	.078	.519	.068	-.078	.334	-.102	-.036	-.089
スーパー店長	企業的	.206	.268	.296	.047	-.092	-.088	-.071	.056	.041
自動車組立	現実的	.136	-.032	.005	.761	.006	-.115	.021	-.204	.115
大工	現実的	-.008	-.052	.074	.656	-.062	-.077	.230	-.100	.075
とび	現実的	-.054	-.012	.024	.583	.062	-.060	.065	.077	-.013
自動車営業	企業的	.152	.185	.015	.252	.023	.030	-.090	.186	.002
診療放射線技師	研究的	-.019	.000	.003	-.004	.748	.076	.026	-.083	.026
看護師	社会的	-.051	.061	-.020	.018	.667	.039	-.013	.103	-.082
薬剤師	研究的	.177	.123	.029	-.123	.451	-.030	.040	-.176	.209
医療事務	慣習的	.163	.170	.038	.011	.402	-.069	-.078	-.004	.052
歯科医師	研究的	-.008	-.106	.017	.030	.349	.141	.047	.241	.079
ホームヘルパー	社会的	-.021	.247	-.017	.135	.286	-.162	.012	.241	-.085
放送ディレクター	企業的	.034	.024	.033	-.130	-.019	.762	.096	-.105	.148
テレビカメラマン	芸術的	-.074	.058	.061	-.081	.086	.672	-.003	-.039	.096
酪農従事者	現実的	-.011	.135	-.073	.218	-.035	.073	.555	.086	.026
稲作農業者	現実的	.024	-.016	-.071	.291	-.043	.053	.514	.103	.042
獣医師	研究的	.099	.036	.065	.020	.097	.039	.432	.030	.017
小学校教員	社会的	-.022	.114	.007	-.035	.042	-.065	.009	.613	.091
日本語教師	社会的	.250	.159	.027	-.177	-.125	-.094	.138	.528	.049
電車運転士	現実的	-.093	.033	-.104	.193	-.077	.123	.041	.179	.545
航空管制官	慣習的	.230	-.057	.017	.052	-.049	.245	.013	-.091	.451
バイオテクノロジー研究者	研究的	.037	-.238	.228	-.018	.270	-.131	.086	.083	.404
路線バス運転手	現実的	-.141	.118	-.080	.348	.003	.015	-.073	.212	.352
気象予報士	研究的	.108	-.018	.066	.057	.066	.237	.017	-.015	.335

※負荷量が.400以上の箇所に網掛けを付した。あわせて各因子に相対的に負荷量が高い項目について太枠で囲った。

図表3-3 各職業に対する興味の因子分析(最尤法プロマックス回転、6因子数指定)

		1	2	3	4	5	6
税理士	慣習的	.805	-.035	-.077	.013	-.110	.045
ソフトウェア開発	研究的	.750	-.207	.050	.110	-.051	-.072
コピーライター	芸術的	.680	.083	.073	-.106	-.072	-.057
司法書士	慣習的	.638	-.103	-.052	.009	.108	.125
翻訳者	芸術的	.599	.014	.207	-.013	-.065	-.013
商社営業	企業的	.592	.039	-.003	-.074	.073	-.025
キャリアカウンセラー	社会的	.517	.091	-.124	-.030	.154	.075
秘書	慣習的	.515	.251	-.051	-.018	-.167	-.015
学校事務	慣習的	.501	.327	-.106	-.049	-.056	.020
外交官	社会的	.355	-.041	-.038	.021	.322	.018
航空管制官	慣習的	.316	-.126	.137	.155	.252	.004
カフェ店員	社会的	-.052	.722	.057	.011	-.057	-.025
ハンバーガーショップ店長	企業的	-.061	.658	.047	.125	-.176	.069
ホテル・旅館支配人	企業的	.096	.617	.016	-.138	.164	-.006
空港グランドスタッフ	慣習的	.057	.550	-.048	-.102	.131	.083
旅行会社カウンター係	慣習的	.136	.548	.049	-.070	.130	-.058
保育士	社会的	-.092	.542	.057	.014	-.068	.073
ツアーコンダクター	企業的	-.072	.533	-.045	.095	.266	-.088
日本語教師	社会的	.295	.370	.019	-.041	.034	-.098
小学校教員	社会的	.055	.370	-.084	.023	.211	.023
和菓子職人	現実的	-.146	.366	.249	.333	-.193	.054
ホームヘルパー	社会的	-.015	.364	-.127	.115	-.010	.245
スーパー店長	企業的	.254	.276	.237	.004	.019	-.110
自動車営業	企業的	.163	.263	-.098	.173	.239	-.023
イラストレーター	芸術的	-.099	-.089	.726	-.010	.065	.111
舞台美術スタッフ	芸術的	-.005	.049	.681	-.011	.025	-.020
ファッションデザイナー	芸術的	-.151	.117	.544	-.055	.296	.017
学芸員	研究的	.156	.046	.509	-.045	.106	-.025
インダストリアルデザイナー	芸術的	.202	-.035	.476	.096	.098	-.099
アートディレクター	芸術的	.012	.064	.467	-.056	.431	-.108
バイオテクノロジー研究者	研究的	.166	-.222	.265	.138	-.033	.313
大工	現実的	-.022	-.099	.037	.784	-.013	-.084
自動車組立	現実的	.141	-.128	-.093	.718	.035	-.032
稲作農業者	現実的	-.021	.055	.051	.585	-.064	.000
とび	現実的	-.069	.023	-.103	.582	.140	.009
酪農従事者	現実的	-.065	.198	.080	.531	-.092	.017
路線バス運転手	現実的	-.034	.179	-.142	.378	.287	-.020
電車運転士	現実的	.045	.070	-.037	.348	.283	-.036
獣医師	研究的	.065	.070	.205	.274	-.135	.151
テレビカメラマン	芸術的	-.123	.051	.173	-.088	.638	.095
放送ディレクター	企業的	-.006	.003	.228	-.059	.590	.013
新聞記者	企業的	.265	.024	.004	.090	.302	.075
気象予報士	研究的	.168	-.049	.142	.135	.291	.100
診療放射線技師	研究的	-.053	-.029	.011	-.030	.090	.783
看護師	社会的	-.077	.132	-.079	-.038	.129	.636
薬剤師	研究的	.222	.031	.117	-.064	-.105	.491
医療事務	慣習的	.192	.162	-.004	-.049	.003	.399
歯科医師	研究的	.006	.013	-.005	.064	.274	.341

※負荷量が.400以上の箇所に関掛付けを付した。あわせて各因子に相対的に負荷量が高い項目について太枠で囲った。

図表3-4 各職業に対する興味(「やりたい」)職業の因子分析(最尤法プロマックス回転、4因子数指定)

		1	2	3	4
税理士	慣習的	.814	-.093	.010	-.113
司法書士	慣習的	.763	-.073	.030	-.046
ソフトウェア開発	研究的	.745	-.290	.060	.044
コピーライター	芸術的	.639	.013	-.144	.065
商社営業	企業的	.632	.035	-.115	.010
キャリアカウンセラー	社会的	.625	.153	-.037	-.107
翻訳者	芸術的	.564	-.063	-.020	.206
外交官	社会的	.501	.060	-.010	.026
学校事務	慣習的	.480	.320	-.060	-.133
秘書	慣習的	.442	.184	-.029	-.094
航空管制官	慣習的	.420	-.074	.135	.189
新聞記者	企業的	.409	.128	.088	.062
薬剤師	研究的	.321	.078	.148	.075
医療事務	慣習的	.309	.241	.115	-.026
気象予報士	研究的	.304	.045	.156	.200
歯科医師	研究的	.215	.175	.190	.033
カフェ店員	社会的	-.155	.715	.013	.045
ホテル・旅館支配人	企業的	.097	.702	-.162	.050
空港グランドスタッフ	慣習的	.084	.651	-.086	-.034
ツアーコンダクター	企業的	-.048	.635	.038	.007
ハンバーガーショップ店長	企業的	-.169	.620	.174	.002
旅行会社カウンター係	慣習的	.112	.599	-.110	.078
保育士	社会的	-.157	.553	.061	.038
小学校教員	社会的	.115	.473	.011	-.050
ホームヘルパー	社会的	.032	.441	.214	-.153
日本語教師	社会的	.245	.365	-.095	.032
自動車営業	企業的	.235	.355	.131	-.058
看護師	社会的	.167	.310	.212	-.077
大工	現実的	-.055	-.135	.746	.028
自動車組立	現実的	.163	-.130	.689	-.102
稲作農業者	現実的	-.066	.023	.605	.026
とび	現実的	-.014	.081	.570	-.087
酪農従事者	現実的	-.131	.165	.566	.047
和菓子職人	現実的	-.264	.294	.390	.208
獣医師	研究的	.032	.024	.366	.171
路線バス運転手	現実的	.061	.296	.339	-.096
電車運転士	現実的	.134	.163	.307	.014
バイオテクノロジー研究者	研究的	.247	-.214	.279	.255
診療放射線技師	研究的	.222	.159	.275	.003
イラストレーター	芸術的	-.106	-.134	.075	.784
舞台美術スタッフ	芸術的	-.074	-.027	.017	.727
ファッションデザイナー	芸術的	-.108	.168	-.039	.650
アートディレクター	芸術的	.091	.138	-.108	.587
学芸員	研究的	.133	.009	-.044	.575
インダストリアルデザイナー	芸術的	.166	-.091	.061	.536
放送ディレクター	企業的	.206	.179	-.074	.345
テレビカメラマン	芸術的	.134	.268	-.072	.297
スーパー店長	企業的	.182	.232	-.042	.263

※負荷量が.400以上の箇所に網掛けを付した。あわせて各因子に相対的に負荷量が高い項目について太枠で囲った。



## 第4章 興味領域の属性別の特徴

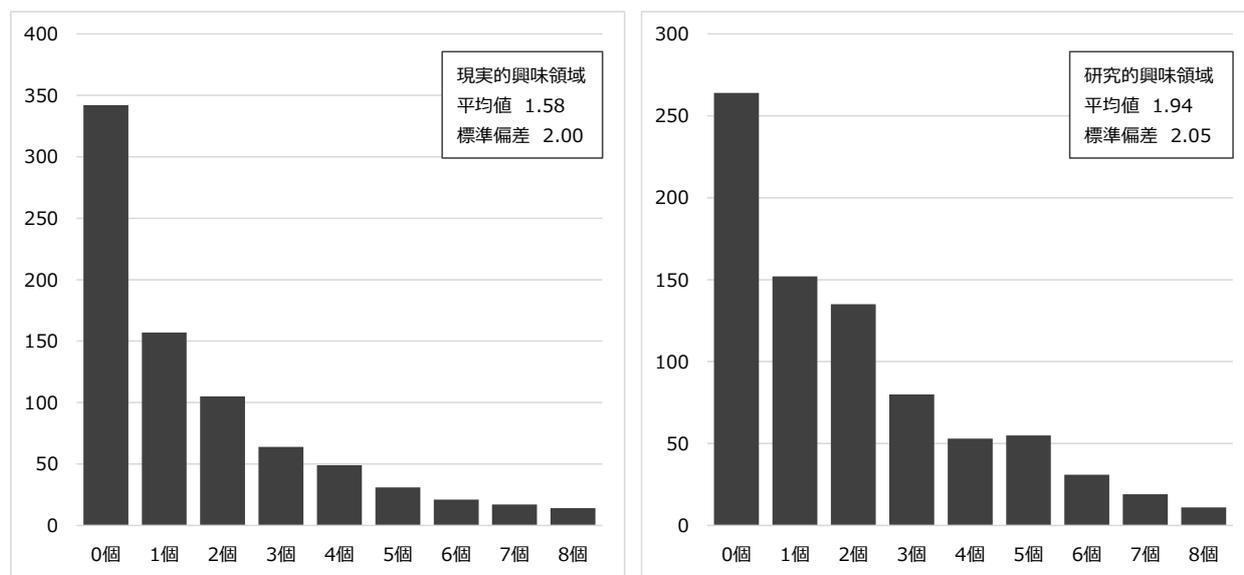
### 第1節 各興味領域の平均値・標準偏差・分布

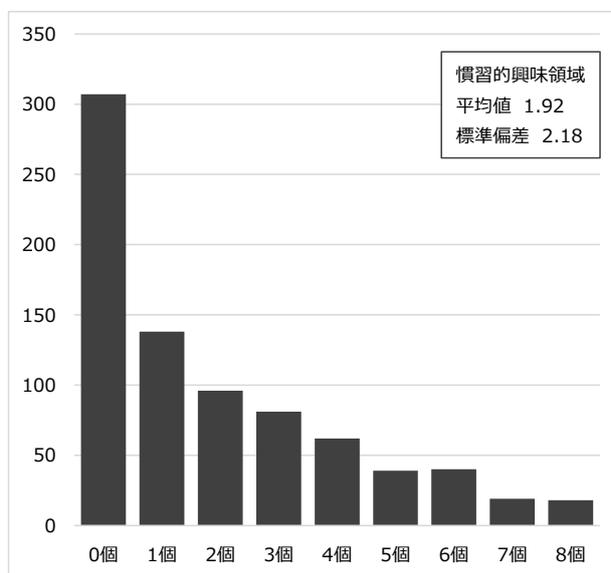
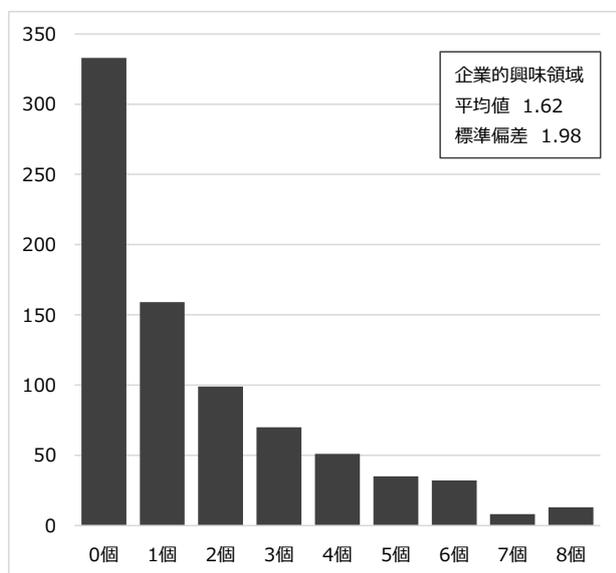
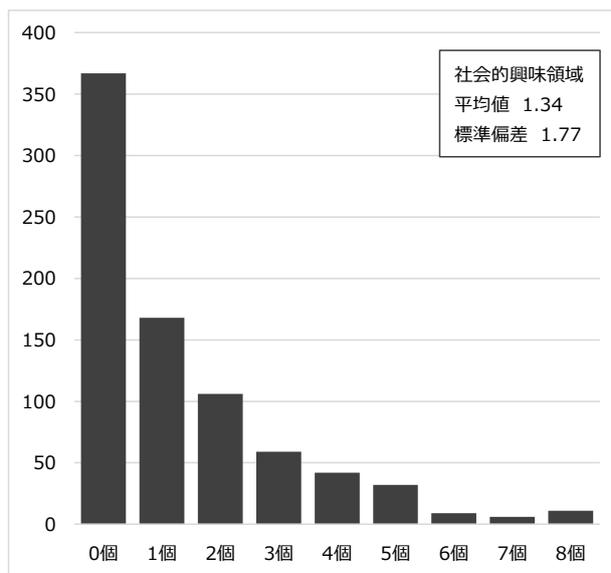
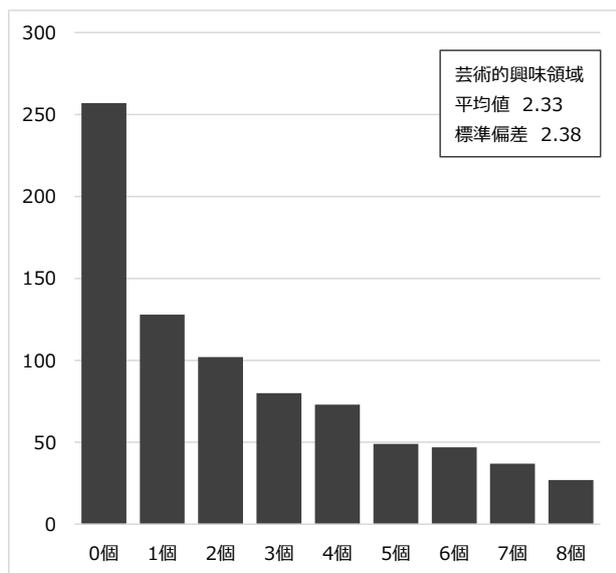
ここからは OHBY カードによる職業興味の特徴を、ホルランドの6類型をもとに検討を行う。前章で興味領域別に $\alpha$ 係数をもとめた結果、内的一貫性が十分な値を示したので、各領域ごとに「やりたい」と回答した数を数え上げ、各領域の得点とした。

図表4-1には、各領域の平均値、標準偏差、分布（ヒストグラム）を示した。平均値が最も大きいのは「芸術的」興味領域であった（平均値=2.33）。以下、「研究的」（平均値=1.94）、「慣習的」（平均値=1.92）と続いていた。ここまで繰り返し示したとおり、「芸術的」な職業に対する興味が高いことが示される。また、標準偏差に着目した場合も最も大きいのは「芸術的」興味領域であった（SD=2.38）。以下、「慣習的」（SD=2.18）、「研究的」（SD=2.05）と続いていた。職業興味の分布は、少なくとも OHBY カードのイラストを評定させる形で測定した場合、基本的には右側に末広がり（右肩下がり）の形状をしていることが、今回、改めて確認されたと言える。

なお、この点について、どの興味領域においても「0個が最も多く右側に末広がり」という分布形が共通して（＝偏りなく）みられている点は、OHBY カードの妥当性を示す1つの証拠として解釈しうる。例えば、特定の興味領域だけが分布型が異なるといった偏りがなく、成人の選好が万遍なく反映された職業でカードが構成されている点はより強調すべき結果であると思われる（当機構深町珠由主任研究員による指摘）。

図表4-1 各興味領域の平均値、標準偏差、分布(ヒストグラム)





## 第2節 OHBY カードによる測定結果と既存の測定方法による測定結果の比較

次に OHBY カードによる測定結果が既存の方法による測定結果と一致するかを確認した。具体的には、OHBY カードの結果と「順位法」「スケール法」による職業興味の把握を比較して、同じ結果が見られるか検討した。

ここで、順位法とは RIASEC の6類型を示し、順位をつけてもらう手法であり、どの領域に興味がかれるかを端的に単一項目で測定する手法である。本節では1位に挙げられた興味類型を回答者の職業興味を表すものとして分析した。一方、スケール法は一般的な職業興味検査であり、今回は job tag の「興味に関する診断テスト」の項目で測定した。

図表4-2に、職業興味に関する順位法及びスケール法による結果と OHBY カードによる結果との順位相関係数を示した。その結果、順位法ではおおむね一致したが、やや食い違う結果もみられた。例えば、OHBY カードによる結果が「現実的」と順位法による結果が「現実

的」の正の相関係数は0.123であり、この値は表の行・列で比較しても最も大きな値となっている。つまり、OHBYカードで「現実的」と判定された場合には、順位法でも「現実的」と判定されやすいことが示される。同様に、相関係数は「研究的」で0.131、「芸術的」で0.171、「社会的」で0.211となっており、いずれも大きな値となっている。しかし、OHBYカードによる結果が「企業的」の場合、順位法による結果と正の相関係数が最も大きかったのは「社会的」であった。同様にOHBYカードによる結果が「企業的」の場合、順位法による結果と相関係数の絶対値が最も大きかったのは「慣習的」であった。このように「企業的」「慣習的」な興味領域で若干食い違っている結果となったが、これは順位法が単一項目による粗い測定法であったことが原因と想定される。

また、42項目で測定するjob tagの職業興味検査の結果とは完全一致した（＝同じ職業興味の測定結果の相関係数が高かった）。表に示したとおり、OHBYカードによる結果が「現実的」の場合、職業興味検査の結果も「現実的」であった。同様に、OHBYカードによる結果と職業興味検査の相関係数は「研究的」で0.597、「芸術的」で0.656、「社会的」で0.579、「企業的」で0.559、「慣習的」で0.529となっており、いずれも大きな値であった。

図表4-2 職業興味に関する順位法及スケール法による結果とOHBYカードによる結果との順位相関係数

		順位法による結果					
OHBY カードに よる 結果		現実的	研究的	芸術的	社会的	企業的	慣習的
	現実的	0.123	0.031	-0.029	0.021	-0.029	-0.085
	研究的	0.019	0.131	-0.018	-0.022	0.001	-0.096
	芸術的	-0.050	0.033	0.171	-0.039	0.044	-0.158
	社会的	-0.052	-0.066	-0.027	0.211	0.051	-0.117
	企業的	-0.044	-0.017	-0.006	0.103	0.086	-0.114
	慣習的	-0.036	-0.018	-0.074	0.044	0.124	-0.027

※各行で最も値の大きい相関係数に網掛けを付した。

		jobtagの職業興味検査（興味に関する診断テスト）の結果					
OHBY カードに よる 結果		現実的	研究的	芸術的	社会的	企業的	慣習的
	現実的	0.516	0.406	0.303	0.311	0.329	0.222
	研究的	0.335	0.597	0.439	0.314	0.452	0.428
	芸術的	0.254	0.498	0.656	0.321	0.548	0.388
	社会的	0.182	0.241	0.276	0.579	0.462	0.304
	企業的	0.222	0.312	0.406	0.473	0.559	0.350
	慣習的	0.179	0.351	0.306	0.396	0.454	0.529

※各行で最も値の大きい相関係数に網掛けを付した。

以上のとおり、既存の測定方法と同じ結果を示すか確認した結果、OHBYカードの結果と既存の職業興味の測定方法（順位法、尺度法）で、おおむね同じ結果となった。すなわち、一定の基準関連妥当性が備わっていることを確認できたと言える。

### 第3節 OHBY カードによる興味領域の属性別の検討

OHBY カードによる興味領域の属性別の特徴を、ホルランドの6 類型をもとに検討する。

図表4-3には、年齢（大学生含む）別の職業興味の特徴を示した。上述のとおり、各領域ともに分布に偏りがみられたためノンパラメトリックな検定であるクラスカル・ウォリス検定を行った。その結果、1%水準で統計的に有意な差がみられたのは「芸術的」及び「企業的」興味領域であった。また、5%水準で統計的に有意な差がみられたのは「慣習的」及び「社会的」興味領域であった。いずれも「大学生」が最も値が高かった。いくつかの解釈が可能であるが、まず、「芸術的」な職業は以前から中高生などの若年層で好まれる領域であることが経験的に知られている。これは「コピーライター」「ファッションデザイナー」「イラストレーター」などの片仮名職業名が多く、概して華やかなイメージがあるためだと推察される。実際、片仮名を含む職業名を各領域ごとに数え上げると、「芸術的」7個、「企業的」5個、「社会的」3個、「慣習的」2個、「研究的」2個、「現実的」1個となり、片仮名職業の個数と検定の結果はおおむね合致することを確認できる。ただし、なぜ若年層が華やかなイメージのある片仮名職業を好むのかにはさらに考察の余地がある。若年層は、現実的な就職の可能性とは関係なく、イメージ先行で職業興味を判断したためにこのような結果になったものと考えられるが、他にも原因があると考えられる。

また、「企業的」な職業は「スーパー」「ホテル」「ハンバーガーショップ」などサービス業の仕事が多く、若年層にも親しみのある職業が並ぶ。そのため「大学生」に好まれたものと推察される。これは「慣習的」「社会的」な職業でも同様であり、日常生活で目にすることの多い職業に興味を持つと考察しうる。これは、小学生～中高生の職業認知においても同様であり（日本労働研究機構，2001;2003）、大学生では、そうしたより年少の職業興味の特徴を一定程度、残していると言えよう。

なお、「慣習的」な職業では「大学生」と「20代」にやや大きな差がみられた。同じ「若者」間で差が生じた結果について本データだけでは十分な考察が難しい。ただし、「大学生」と「20代」の違いには「大卒者のみ」と「大卒者以外を含む」という学歴の違いが含まれる。そのため、第2章図表2-9で示したとおり、概して「大学（文系）」の者は統計的に有意に「慣習的」な職業に興味を示したことが関連している可能性が高いと考えられる。

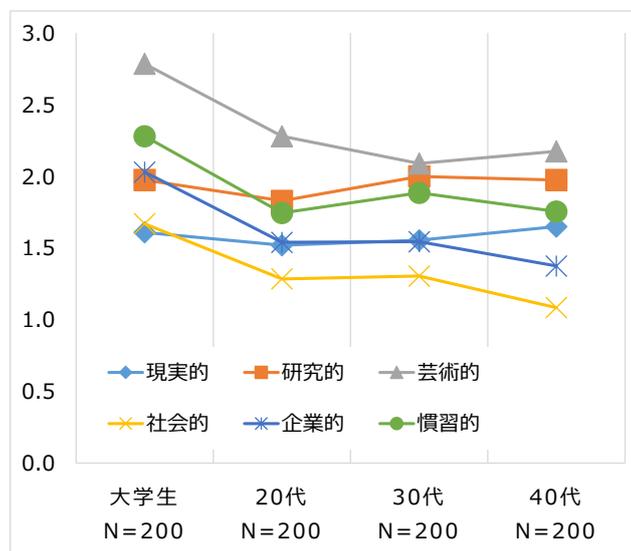
図表4-4には、年齢（大学生含む）別の職業興味の特徴を図で示した。図から、全般的に「大学生」>「20代」>「30代」>「40代」といった傾向を確認することができる。その傾向は、特に「芸術的」「企業的」「社会的」興味領域で顕著である。この図からは、概して「大学生」は職業興味の値が大きく、したがって興味の幅が広いという考察も可能である。実際、図表2-9を縦に合計した値は、「大学生」12.35、「20代」10.20、「30代」10.38、「40代」10.02と大学生のみ値が大きい。ただし、統計的には10%水準で有意傾向を示すのみであり、今後のさらなる検討を要する。

図表4-3 年齢(大学生含む)別の職業興味の特徴①

	大学生 n=200	20代 n=200	30代 n=200	40代 n=200	sig.
現実的	1.61	1.52	1.56	1.65	
研究的	1.98	1.83	2.00	1.98	
芸術的	2.79	2.28	2.09	2.18	**
社会的	1.67	1.29	1.31	1.09	*
企業的	2.03	1.54	1.55	1.38	**
慣習的	2.28	1.75	1.89	1.76	*

※クラスカル・ウォリス検定。sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01  
\*p<.05。各行で最も値が大きい箇所に網掛け、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表4-4 年齢(大学生含む)別の職業興味の特徴②



図表4-5には、性別の職業興味の特徴を示した。ノンパラメトリックな検定であるマンホイットニーのU検定を行った。その結果、1%水準で統計的に有意な差がみられたのは「芸術的」であった。表から「女性」の方が値が大きいことが示される。また、図表4-6からも「女性」の「芸術的」興味領域の値が特に高いことを確認できる。「芸術的」興味領域には「舞台美術スタッフ」「ファッションデザイナー」「イラストレーター」など、女性が選好する職業が多く含まれるためだと考察される。ただし、さらに掘り下げて、なぜ女性が上記のような職業に興味を惹かれるのかについては、さらなる検討が求められる。いずれも広い意味で「美的」なものであり、そうした美的なもの、美しいものを取り扱う職業が好まれるのだとして、さらになぜ女性は美しいものを好むのかについて、生得的な要因、環境的な要因を含めて、よりいっそう根源的な説明を追究する必要があると思われる。

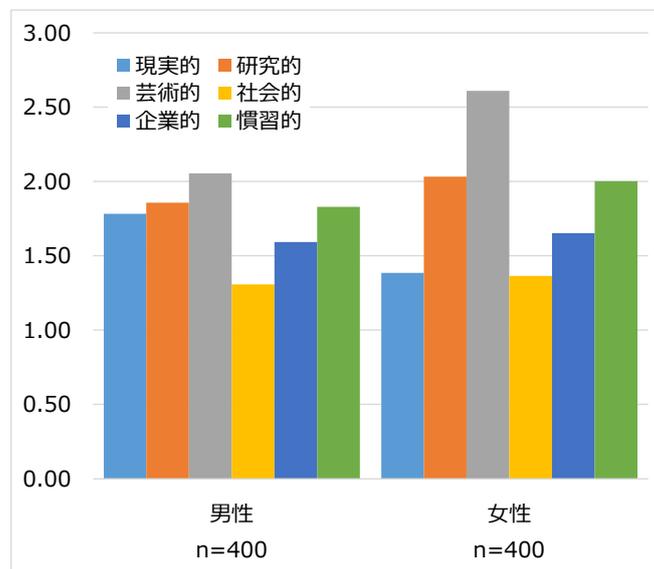
図表4-5 性別の職業興味の特徴①

	男性 n=400	女性 n=400	sig.
現実的	1.78	1.39	
研究的	1.86	2.03	
芸術的	<u>2.06</u>	2.61	**
社会的	1.31	1.37	
企業的	1.59	1.65	
慣習的	1.83	2.00	

※マン・ホイットニーのU検定。sig.は有意水準。

\*\*p<.01 値が大きい箇所に網掛け、値が小さい箇所に下線を付した。

図表4-6 性別の職業興味の特徴②



図表4-7には、学歴別の職業興味の特徴を示した。クラスカル・ウォリス検定を行った。その結果、0.1%水準で統計的に有意な差がみられたのは「慣習的」及び「企業的」興味領域であった。また、1%水準で統計的に有意な差がみられたのは「社会的」興味領域であった。「芸術的」及び「研究的」興味領域では5%水準で統計的に有意な差がみられた。「芸術的」「慣習的」「企業的」興味領域は「大学文系」で値が高く、「研究的」「社会的」興味領域は「大学理系」で値が高かった。いずれの興味領域でも、概して「中学・高校」が最も値が低かった。「大学文系」は比較的多くの職業に興味が高いことが示された一方、「大学理系」は研究者や医師、技師、薬剤師などの職業が含まれる「研究的」が高かったことが示される。ただし、「大学理系」で「社会的」興味領域の値が高かった点については考察が難しい。おそらくは「教育」「看護」などの職業が含まれていたためと考えられる。

図表4-8には、学歴別の職業興味の特徴を図で示した。図から、全般的に「大学文系」の値が高いこと、「大学理系」では「研究的」の値が高いことなどが確認できる。加えて、「中

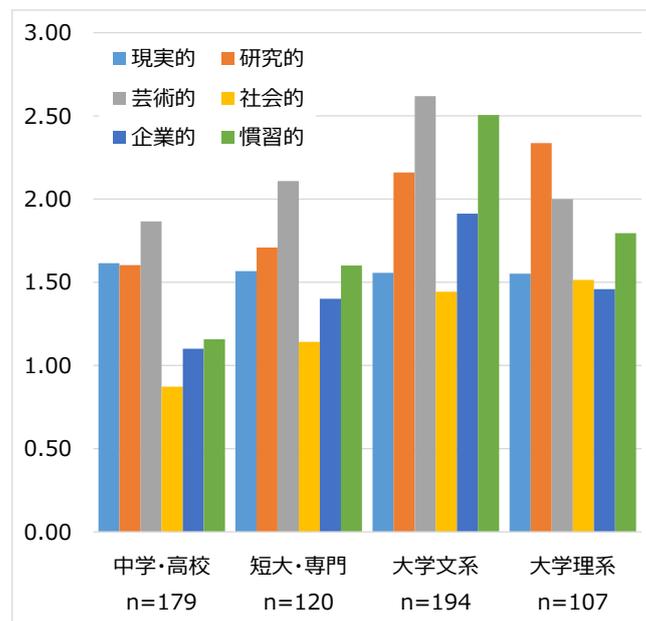
学・高校」「短大・専門」では相対的に「芸術的」で値が高いことが分かる。フリードマン検定からボンフェローニ法による多重比較の結果でも、「中学・高校」では「芸術的」な職業興味は「社会的」「企業的」「慣習的」な職業興味と比較して、統計的に有意に値が大きかった（なお、「短大・専門」では「芸術的」>「社会的」「企業的」、「大学文系」では「芸術的」>「現実的」「社会的」「企業的」、「大学理系」では有意差なし）。

図表4-7 学歴別の職業興味の特徴①

	中学・高校 n=179	短大・専門 n=120	大学文系 n=194	大学理系 n=107	sig.
現実的	1.61	1.57	1.56	1.55	
研究的	<u>1.60</u>	1.71	2.16	2.34	*
芸術的	<u>1.87</u>	2.11	2.62	2.00	*
社会的	0.87	1.14	1.44	1.51	**
企業的	<u>1.10</u>	1.40	1.91	1.46	***
慣習的	<u>1.16</u>	1.60	2.51	1.79	***

※クラスカル・ウォリス検定。sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。各行で最も値が大きい箇所に網掛け、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表4-8 学歴別の職業興味の特徴②



図表4-9には、現在の状況（雇用形態等）別の職業興味の特徴を示した。クラスカル・ウォリス検定を行った。その結果、「社会的」を除く全ての興味領域で0.1%水準で統計的に有意な差がみられた。また、「社会的」興味領域でも1%水準で統計的に有意な差がみられた。概して、「正社員」と「学生」の値が高く、「慣習的」「研究的」「現実的」では「正社員」の値が高く、「芸術的」「企業的」「社会的」では「学生」の値が高かった。逆に、概して「非正社員」と「その他」の値は低く、「芸術的」「慣習的」「現実的」で「非正社員」の値が低く、

「企業的」「社会的」で「その他」の値が低かった。これらの結果は、現在の状況（雇用形態等）別の職業興味の特徴を図で示した図表4-10でも確認できる。おおむね「正社員」「学生」はどの興味領域でも値は高く、「学生」は特に「芸術的」の値も高い。一方で「非正社員」「その他」では値が低い。

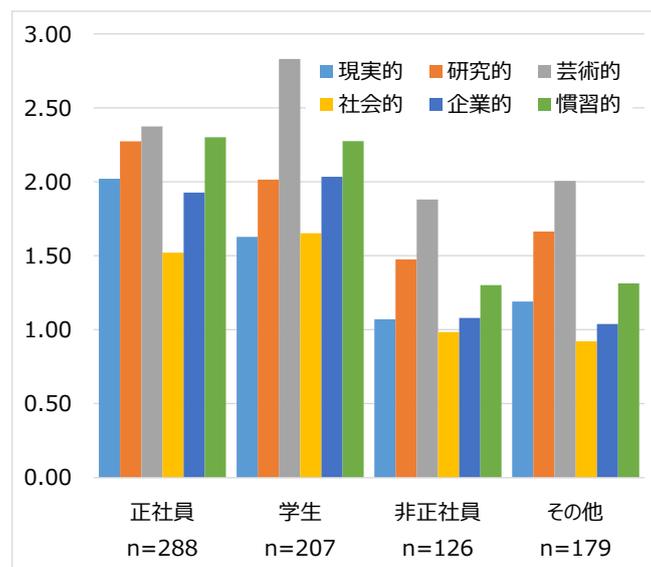
以上の結果は、ここで検討している「現在の状況（雇用形態等）」と先に検討した「学歴」には高い相関関係がみられることに理由を求めることができる。例えば、「正社員」では大卒者は65.3%、非大卒者は34.8%であるのに対して、「非正社員」では大卒者は30.1%、非大卒者は69.9%、「その他」図では大卒者は38.6%、非大卒者は61.5%となっている。「学生」はほぼ大学在学中であるため（一部、短大在学中）、事実上、「現在の状況（雇用形態等）」による職業興味の違いは「学歴」による職業興味の違いと交絡している（＝重なっている）ことを意味している。ここでは、職業興味は、学歴ないし現在の状況（雇用形態等）によっておおむね二分されていることを指摘しておきたい。

図表4-9 現在の状況(雇用形態等)別の職業興味の特徴①

	正社員 n=288	学生 n=207	非正社員 n=126	その他 n=179	sig.
現実的	2.02	1.63	<u>1.07</u>	1.19	***
研究的	2.27	2.01	<u>1.48</u>	1.66	***
芸術的	2.38	2.83	<u>1.88</u>	2.01	***
社会的	1.52	1.65	0.98	<u>0.92</u>	**
企業的	1.93	2.03	1.08	<u>1.04</u>	***
慣習的	2.30	2.28	<u>1.30</u>	1.31	***

※クラスカル・ウォリス検定。sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01。各行で最も値が大きい箇所に網掛け、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表4-10 現在の状況(雇用形態等)別の職業興味の特徴②



図表4-11には、職業別の職業興味の特徴を示した。なお、ここでは、①「管理」「専門・技術」「事務」をまとめて「専門・技術・事務」、②「販売」「サービス」を「販売・サービス」、③「生産工程」「建設・輸送・その他」を「生産工程・建設他」に集約した。

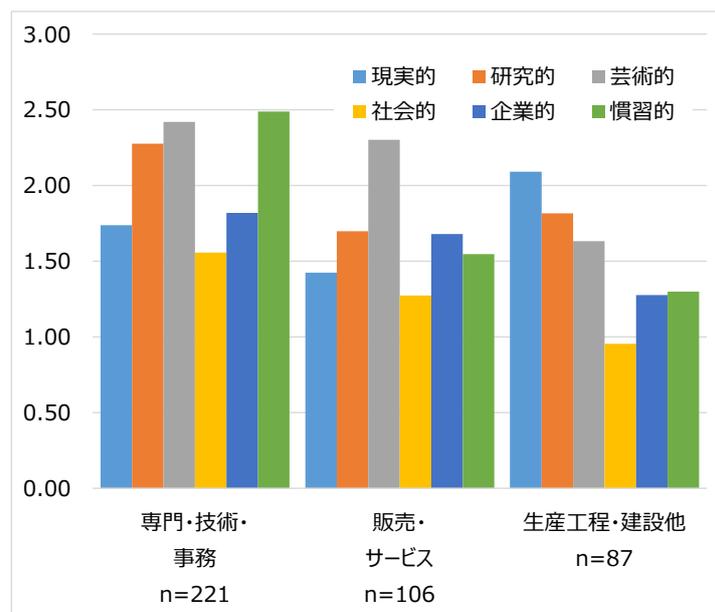
クラスカル・ウォリス検定を行った結果、0.1%水準で統計的に有意な差がみられたのは「慣習的」興味領域であった。また、1%水準で統計的に有意な差がみられたのは「社会的」興味領域であった。さらに、5%水準で統計的に有意な差がみられたのは「芸術的」及び「研究的」興味領域であった。いずれも「専門・技術・事務」で値が高かった。一方、「芸術的」「慣習的」「社会的」興味領域は「生産工程・建設他」で値が低かった。また、「研究的」興味領域は「販売・サービス」で値が低かった。

図表4-11 職業別の職業興味の特徴①

	専門・技術・ 事務 n=221	販売・ サービス n=106	生産工程・ 建設他 n=87	sig.
現実的	1.74	<u>1.42</u>	2.09	
研究的	2.28	<u>1.70</u>	1.82	*
芸術的	2.42	2.30	<u>1.63</u>	*
社会的	1.56	1.27	<u>0.95</u>	**
企業的	1.82	1.68	1.28	
慣習的	2.49	1.55	<u>1.30</u>	***

※クラスカル・ウォリス検定。sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。各行で最も値が大きい箇所に網掛け、最も値が小さい箇所に下線を付した。

図表4-12 職業別の職業興味の特徴②



図表4-12には、職業別の職業興味の特徴を図で示した。図から、「専門・技術・事務」の値が全般的に高いことが、改めて確認される。それ以外に、相対的に「専門・技術・事務」は「芸術的」「慣習的」興味領域の値が高いこと、「販売・サービス」でも「芸術的」興味領域の値が高いこと、「生産工程・建設他」では「研究的」「現実的」興味領域の値が高いことなどが確認される。

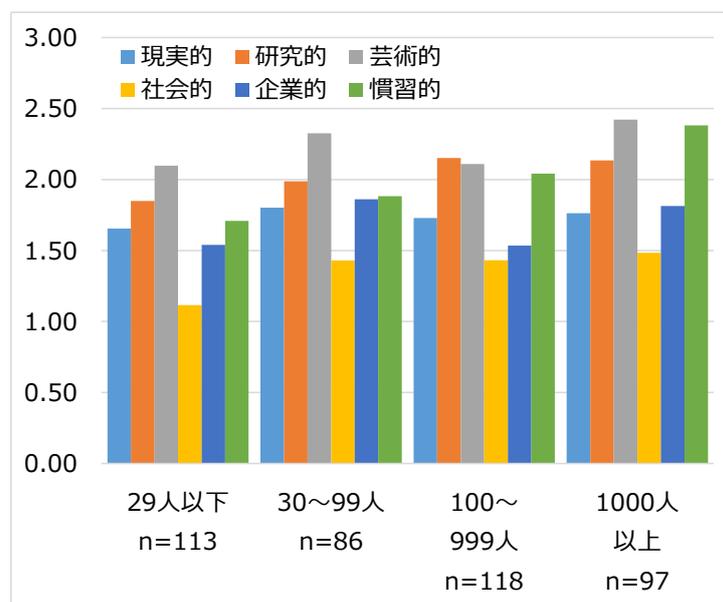
これら職業別の職業興味の背景には、やはり「学歴」の影響が強いことが推察される。実際、「専門・技術・事務」では大卒者は67.8%、非大卒者は32.1%であるのに対して、「販売・サービス」では大卒者は40.5%、非大卒者は59.4%、「生産工程・建設他」では大卒者は37.9%、非大卒者は62.0%であり、学歴と職業には明確な相関関係がみられる。先の「現在の状況（雇用形態等）」に関する結果と同様、「職業」についても「学歴」の影響を根深く受けていることを指摘できる。

図表4-13 勤務先の従業員規模別の職業興味の特徴①

	29人以下 n=113	30~99人 n=86	100~ 999人 n=118	1000人 以上 n=97	sig.
現実的	1.65	1.80	1.73	1.76	
研究的	1.85	1.99	2.15	2.13	
芸術的	2.10	2.33	2.11	2.42	
社会的	1.12	1.43	1.43	1.48	
企業的	1.54	1.86	1.53	1.81	
慣習的	1.71	1.88	2.04	2.38	

※クラスカル・ウォリス検定。sig.は有意水準。ただし本表では有意差なし。

図表4-14 勤務先の従業員規模別の職業興味の特徴②



図表4-13には、勤務先の従業員規模別の職業興味の特徴を示した。ただし、統計的に有意な差はみられなかった。従業員規模も「学歴」とは緩やかな相関があり、「1000人以上」では大卒者は63.9%、非大卒者は36.1%、「29人以下」では大卒者は41.6%、非大卒者は58.4%であった。しかしながら、従業員規模別では職業興味の違いが観察されなかった。図表4-14には、勤務先の従業員規模別の職業興味の結果を図で示したが、規模が大きくなるほど各領域の値は高くなっているように見えるが、統計的には有意な差とならなかった。この点について、学歴が高いほど大企業に勤める割合が高いという一般的な傾向を前提として勤務先の従業員規模別に分析結果をみると、学歴別でみられたような明確な差は必ずしもみられなかったと言える。ここまで本研究では「学歴」要因が職業興味に強い影響を与えている可能性を示唆する結果が散見されたが、「学歴」の要因の影響が予想される場合であっても背景には複雑に要因が絡み合っていることが推察される。なお、明確な結果が出なかった点については、nが少なかったために統計的に有意な結果とならなかった可能性もあるため、ここで付言しておきたい。

#### 第4節 職業興味が成人のキャリアに与える影響

本節では、職業興味が成人のキャリアにどのような影響を与えるかを検討する。客観的キャリアの代替指標として「年収」、主観的キャリアの代替指標として「満足感」に着目して、職業興味の影響を検討する。

図表4-15には、各興味領域が最近1年間の税込み個人年収（以下、個人年収）及び職業生活やキャリアへの満足感（以下、満足感）に与える影響について検討した。具体的には、各興味領域を説明変数、個人年収及び満足感を被説明変数とする重回帰分析を行った。なお、調整変数として「年代」と「性別」を重回帰分析に投入した。

その結果、個人年収に影響を与える変数は、調整変数である「年代」と「性別」が1%水準で統計的に有意であった（それぞれ $\beta=0.311$ 、 $\beta=-0.292$ ）ことを除くと、「慣習的」興味領域が1%水準で統計的に有意であった。また、「社会的」興味領域が5%水準で統計的に有意であった。なお、「芸術的」興味領域も5%水準で統計的に有意だったが、負（マイナス）の影響を与えていた。

また、満足感に影響を与える変数は、調整変数である「年代」が1%水準で統計的に有意であった（それぞれ $\beta=-0.138$ ）ことを除くと、「社会的」興味領域が1%水準で統計的に有意であった。なお、満足感についても「芸術的」興味領域も5%水準で統計的に有意だったが、負（マイナス）の影響を与えていた。

これらの結果から、年収には「慣習的」「企業的」な職業興味がプラスの影響を与えること、満足感には「社会的」な職業興味がプラスの影響を与えることが示される。また、逆に「芸術的」な職業興味をもつことは、年収に対しても満足感に対してもマイナスの影響を与えることが示される。

図表4-15 各興味領域が最近1年間の税込み個人年収  
及び職業生活やキャリアへの満足感に与える影響(重回帰分析)

	最近1年間の 税込み 個人年収		職業生活や キャリアへの 満足感	
	$\beta$	sig.	$\beta$	sig.
年代	0.311	***	-0.138	***
性別	-0.292	***	-0.029	
芸術的	-0.122	*	-0.123	*
慣習的	0.146	**	0.056	
企業的	0.122	*	0.083	
研究的	0.027		-0.019	
現実的	0.018		0.038	
社会的	-0.032		0.187	**
調整済みR <sup>2</sup>	0.209	***	0.078	***

※重回帰分析。性別はダミー変数0=男性、1=女性。 $\beta$ は標準編回帰係数。sig.は有意水準。\*\*\* $p<.001$  \*\* $p<.01$  \* $p<.05$ 。

こうした結果を考察するにあたって、さらに別の変数を被説明変数とした重回帰分析も行った。その結果、図表4-16に示したとおり、現在、「正規雇用」か否か、職業が「専門・事務・販売」か否かでも「慣習的」職業興味は正（プラス）の影響を与えていた。こうした結果から、「慣習的」な職業興味を抱くことは、「正規雇用」や「専門・事務・販売」などへの就職につながりやすく、結果的に年収にもプラスの影響を与える可能性を指摘することができる。「慣習的」興味領域には「医療事務」「学校事務」といった事務的な職業の他、「司法書士」「税理士」などの資格を要する職業、「航空管制官」「秘書」などの専門的な知識や技術を要する職業など、現代社会において専門性の高い正規雇用への就職に結びつきやすい職業が多く含まれている。慣習的な職業興味は「定まった方式や規則に従って行動するような職業に対する関心の強さを示しています。職業としては、経理事務関係の職業、一般事務の職業、法務関係の職業、編集・校正の職業などが当てはまります」と紹介されるが、こうした職業興味が収入の高さへと結びつきやすいことを指摘できる。

一方、満足感については「社会的」興味領域が高かった。社会的な職業興味は「人に接したり、奉仕したりする職業に対する関心の強さを示しています。職業としては、社会奉仕の職業、医療保健関係の職業、学校教育・社会教育関係の職業、販売関係の職業などが当てはまります」と紹介される。このとおり、社会奉仕的な職業、具体的には「医療」や「教育」などの職業が含まれる。こうした職業は実際に人と接することが多いため、仕事を行った成果や反応を直接、人から得やすい。この点がストレスとなることも大いにありうるが、今回のデータでは人と接する社会的な職業興味を抱いている場合、職業やキャリアに対する満足

感に結びつきやすかったとすることができよう。

図表4-16 各興味領域が「正規雇用」か否か及び  
職業が「専門・事務・販売」か否かに与える影響(重回帰分析)

	正規雇用か否か		職業が「専門・事務・販売」か否か	
	β	sig.	β	sig.
年代	0.051		0.037	
性別	-0.267	***	0.068	
芸術的	-0.125	*	-0.026	
慣習的	0.199	**	0.361	***
企業的	0.145	*	-0.187	
研究的	-0.006		-0.004	
現実的	0.104	*	-0.062	
社会的	-0.035		0.081	
(定数)	0.678		0.291	
調整済みR <sup>2</sup>	0.152	***	0.066	***

※重回帰分析。性別はダミー変数0=男性、1=女性。βは標準編回帰係数。sig.は有意水準。\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05。

なお、上記の結果に対して「芸術的」な職業興味は、年収及び満足感ともに負の（マイナスの）影響を与えていた。「芸術的」な職業は、ここまで繰り返し示してきたとおり、華やかな片仮名職業が多く、基本的に人気が高く、好まれやすい。しかしながら、好まれやすいがゆえに「芸術的」興味領域と関連が深い職業は供給過多となりやすい。そのため、「芸術的」な職業興味を生かした職業に就職しにくい、就職したとしても給与水準が低く抑えられやすい。結果的に、就職が困難であったり、収入が十分に得られず、最終的には満足感も抑えられるものと推察される。

また別の考察として、「芸術的」カードを選好しがちな人は、職業選択において現実感が低く、高収入を前提としないような仕事を選びがちであり、それが結果的に低年収を反映している可能性もある。主観的なキャリア不満足についても、低年収を含め、職業生活に対して何らかストレスや不協和を抱えていることの帰結であると考察されよう。

以上、本研究の結果、従来、成人後のキャリアと職業興味の間には、十分に明らかにされることが少なかったが、今回、客観的キャリア（年収）、主観的キャリア（満足感）の両面について、一定の結果が得られたものとする。

## 第5節 職業興味に関する基礎的な研究の意義

ここまで、①各興味領域の平均値・標準偏差・分布、②OHBY カードによる測定結果と既存の測定方法による測定結果の比較、③OHBY カードによる興味領域の属性別の検討、④職業興味は成人のキャリアに与える影響などについて結果をみてきた。本章の最後にこうした職業興味に関する基礎的な研究の意義について述べたい。

まず、職業興味に関する基礎的な研究は、現在、日本の大学・研究機関等でまとまった形で行われることは少なくなっている。一方で、そうした研究は、職業安定機関における職業相談・職業指導、各領域のキャリアコンサルティングで活用が推奨される各種ツールの理論背景となっている。そのため、今後も引き続き職業興味に関する研究を行うことが望まれる。

また同様に、職業興味以外も含めた各種キャリアガイダンスツール全般の開発及びそれに向けた基礎研究も、まとまった形で行われることは少ない。しかしながら、日本の職業相談・職業指導・キャリアコンサルティングではよく活用される。そのため、今後も引き続き、ツール開発及び関連する基礎的な研究を行うことが望まれる。

特に、従来、国または公的機関が行ってきたキャリアガイダンスツールの研究が縮小傾向にあるのは、日本のみならず他の先進国でも一般的な傾向であり、「キャリアガイダンスの民営化(privatisation)」の典型的な現象として指摘される。国内のキャリア形成支援施策における「ツール」の意義・意味を議論し、官民の適切なバランスでキャリアガイダンスツールの維持を検討する必要があると言えよう。

## 引用文献

日本労働研究機構(2001). 中学生・高校生の職業認知 資料シリーズ No.112

日本労働研究機構(2003). 小学生の職業意識とキャリアガイダンス 資料シリーズ No.138

## 第5章 自由記述

### 第1節 OHBY カードの評定後の自由記述

本研究では、OHBY カードのイラストの評定の後、その感想を自由に記述するように求めた。具体的には、「イラストを見て『やりたい』『やりたくない』『どちらともいえない』を選んだ感想を、どんなことでも良いのでお書きください」の教示文を提示し、自由記述を行ってもらった。

これら自由記述は、おおむね OHBY カードそのものに対する感想、例えばイラストの絵柄やカードを分類してみた感想などが中心であったが、大学生・成人の職業興味の特徴を考察する上で有益な情報を提供するものも多々みられた。多くの記述が寄せられたので、以下に、その主だったものについて見ていくこととする。

### 第2節 OHBY カードのイラストに対する評価

まず、多くみられた自由記述はイラストそのものに関するものであった。おおむね「分かりやすかった」という記述が多かった。

- ・イラストがわかりやすく想像しやすかった（38 歳女性）。
- ・文字だといまいちイメージが湧かなかったが、イラストだと具体的な仕事がイメージできた（30 歳女性）。
- ・イラストを見ると直感的に選ぶことができたので、自分の意思がわかった（19 歳女性）。
- ・イラストがとても分かりやすく、可愛かったです（21 歳男性）。
- ・わかりやすいイラストだった（32 歳女性）。
- ・イラストが分かりやすかった（22 歳女性）。

また、イラストそのものやイラストを評定することが「面白かった」「楽しかった」という記述も見られた。

- ・興味を持ってそう、やれそうといったことを直感的に選ぶ体験はあまりなかったので、面白かったです。色々な仕事があると実感しました（22 歳男性）。
- ・とても楽しく拝見させていただきましたし、だいすきなものが多かったです（21 歳男性）。
- ・楽しい雰囲気イラストだと迷ってしまう（47 歳男性）。
- ・わかりやすかった。面白い（29 歳女性）。
- ・どんな仕事だろうとよく分からない絵もありましたが、全体的に分かりやすく回答が楽しかったです（36 歳女性）。

一方で、「イラストが分かりにくい」という記述も一定数みられた。

- ・数枚だけイラストが示す職業が何か分からないものがあったので、少し判断が難しかったです（21 歳男性）。
- ・イラストが何をしている仕事なのか想像できないものがあったので、どちらとも言えないが多くなった（46 歳女性）。
- ・何やってるのか分からないイラストがあったのは困ったのでやりたくないを選択しました（30 歳女性）。
- ・わかりやすいイラストと、よく見ないと何の職業かわからないのがあった（19 歳女性）。
- ・イラストがなにを表している職業なのかわかりにくいものが多かった（47 歳女性）。
- ・イラストだけでは判断しづらかった。職業の中にも様々な体系があると思う（21 歳男性）。
- ・イラストをみてどのような仕事かわからないものもあって戸惑った（22 歳女性）。
- ・具体的にどんな仕事なのか分からないイラストもあった（49 歳女性）。
- ・イラストだけでは内容がわかりにくいものがあった（46 歳男性）。
- ・良くわからないイラストがいくつかあった（39 歳男性）。

OHBY カードはイラスト面（表面）を見て、それを「選択する」「どちらとも言えない」「選択しない」に分類することが最も基本的な取り扱い方法となる。このイラストについて多くの感想が記述され、「分かりやすかった」「面白かった」「楽しかった」という回答が多く寄せられたのは、OHBY カードにとってポジティブに評価すべき反応であったと言える。

一方で、「イラストが分かりにくい」という回答が寄せられた点については、考察の余地がある。従来、職業カードソート技法で用いられるカードは、その大半が文字情報をカードにしたものであった。ほとんどのカードが「インダストリアルデザイナー」のような職業名をカードにして、その職業名をもとに「選択する」「どちらとも言えない」「選択しない」に分類する。しかし、これでは「インダストリアルデザイナー」という職業名から惹起される利用者の中のイメージによる分類となる。この手法にも一定の意味があるが、一方で「インダストリアルデザイナー」が働いているイラストを提示して、「何かの製品を作るために絵を描いたり打ち合わせをしている」という実際の働いている姿を目にしながらか「選択する」「どちらとも言えない」「選択しない」に分類する方が、現実の職業との結びつきがより明確であり、利用者が抱く職業に対する志向性を測定することが可能である。言わば、「何か」は分からないが「何をやっているか」は分かる状態で職業カードソート技法を行う。このことによって利用者は、ある職業名に対する自分のイメージではなく、むしろリアルな職業に触れていることとなる。

本来、OHBY カードは職業情報ツールとして作成されており、利用者の職業情報・職業知識を増やすことが目的の1つである。そのためにイラストを用いて職業情報を示している。「イラストが分かりにくい」という記述は、イラストそのものの問題であることもさることなが

ら、その職業そのものが外形的・表面的に分かりにくいものである場合が多い。「イラストの分かりにくさ」は絵による職業情報の提示を企図した OHBY カードの課題と言える一方で、それこそがまさに職業情報ツールたる OHBY カードの特徴と表裏一体のものであるということが言えよう。

### 第3節 OHBY カードによる職業理解・自己理解

イラストを評定することを通じて、いろいろな職業があると分かったとする記述も多々見られた。OHBY カードは、上述のとおり、本来、職業情報ツールから派生したものであり、職業理解が進んだとする記述は、OHBY カードの本来的な狙いでもある。

- ・色々なしごとがあるんだと再確認したのと興味がある職種があった（39 歳女性）。
- ・様々な仕事があり、世の中が成り立っていることを改めて感じた（49 歳女性）。
- ・考えている以上に職業がたくさんあると思った。自分のやりたいことははっきりしていると再認識した（25 歳男性）。
- ・いろいろな職業があってやってみたいなと思いました（37 歳女性）。
- ・色んな職業があるなと改めて感じた（26 歳女性）。

また、OHBY カードのもう 1 つの狙いは、職業理解を深めると同時に自己理解を深めることであるが、この点についても関連する記述がみられた。おおむね、自分に向いている仕事があった、方向性が見えてきた、将来性が広がったというものであった。

- ・自分に向いているかどうかを考えるきっかけになった（46 歳女性）。
- ・多彩な職業があったが、色々なイラストを見て、やりたいかどうか分けていくうちに、自分がどんな仕事をしたいのか、その方向性が見えてきた気がした（33 歳男性）。
- ・法律系のお仕事は難しそうなので、やりたくないにした。しかし、意外とどちらともいえないがあって、将来性が広がった気がした（21 歳女性）。

どのような面で自己理解が深まったかについて、具体的にはどのような業種・職種・職業を自分は好むのか、あるいは嫌うのかについて分かったというものが多かった。

- ・工場やお店の製造業やパソコンを使ったデザイン関係の仕事は、黙々と一つのことに集中して作業できるため、自分に向いていると感じている。一方で、難しい知識や技術が求められたり、一度に複数のことを任せられる仕事、人と関わる機会が多い仕事は体力的にも精神的にも厳しいと感じている（24 歳女性）。
- ・運転が苦手なので乗り物系はやりたくないにしました。動物や子供、接客は好きなのでその系列はやりたいにしました。そのほか、興味がわいたのはやりたい、そうじゃないものはどちらとも言えないにしました（48 歳男性）。

- ・金融業が好きなので、お金に関する仕事がしたいと思いました。また、農業や医療の仕事はあまりやりたいと思いませんでした（29歳男性）。

こうした職業理解・自己理解の深まりを反映して、自分の職業選択の大まかな方向性について何らかの形で言及した記述も見られた。

- ・机に向かったりパソコンに向かったりという頭を使う仕事は向いてないと感じた。ファッション関係とかで何かを作るとかそっち関係の方が好き（38歳女性）。
- ・人が大勢いるとなんだか人間関係が大変そうな感じがする。スポットライトを浴びていると楽しそうな感じがする。動物とかの山が出てくるとリラックスできて良い（47歳女性）。
- ・自分の信念を持ち続けられそうな仕事をやりたいと選んだ。責任を持ってそうにない仕事をやりたくない、苦手なことをどちらともいえないと選んだ（21歳女性）。
- ・実際に自分で手を動かして学ぶことがある仕事を主にやりたいとして選んだ。興味のある建築・デザイン分野以外にもやりたいと思う仕事はあった（20歳女性）。
- ・体力を使う仕事はしたくない。また、世間で言われるように、仕事量に対して見合った報酬がない仕事もやりたくない（21歳女性）。

#### 第4節 OHBY カードによる業種・職種・職業の選好：「対人的な職業」

前節でみた自分の職業選択の大まかな方向性の把握から一歩進んで、具体的な業種・職種・職業に関する記述も多くみられた

なかでも、かなりまとまった回答としてみられたのは、人と関わる職業、対人的な職業、人と接する職業などを忌避する傾向である。

- ・人と接することが少ない仕事を選ぼうとしたら限られていて、自分のやりたい内容の仕事は少ないことを再認識した（38歳女性）。
- ・人とのコミュニケーションが多く求められそうな場合にはやりたくないを選んだ（22歳男性）。
- ・不特定多数の人と接する仕事はあまりやりたいと思わない（49歳女性）。
- ・人と積極的にかかわることはあまりしたくないと思った（28歳男性）。
- ・基本的に対人の仕事はあまり好ましいと思わなかった（28歳女性）。
- ・人と直接関わらないしごとはやってみたいと思った（20歳女性）。
- ・基本的に人と接する機会が多い仕事はやりたくない（32歳女性）。
- ・人とあまりかかわらなくていい仕事がしたいから（22歳女性）。
- ・人とできるだけ関わりのないものを選んだ（32歳男性）
- ・人と接する仕事は基本的にやりたくない（36歳男性）。

- ・ 余り人と関わらないような仕事が良い (29 歳男性)。
- ・ 人と関わりすぎることはやりたくない (22 歳男性)。
- ・ 人と接する仕事はあまりしたくない (27 歳女性)。
- ・ 人と関わる仕事はあまりしたくない (28 歳男性)。
- ・ 他人と接する機会を減らしたい (36 歳男性)。
- ・ 人と接するものはやりたくない (37 歳女性)。
- ・ 人と深く関わる仕事を避けたい (21 歳女性)。
- ・ なるべく人と接したくない (48 歳女性)。
- ・ 人と接するのが苦手だから (21 歳女性)。
- ・ 人と関わりたくない (40 歳女性)。

「人と接する」とは、おおむね「接客」のことであると推察される自由記述も多かった。

- ・ 消費者と直接かかわる仕事はあまりやりたくない傾向があった (21 歳女性)。
- ・ 接客業は難しそう (24 歳女性)。
- ・ 接客系はやりたくない (23 歳女性)。
- ・ 接客は全般的に嫌だと思った (34 歳男性)。
- ・ 接客業においてはやりたくないが多かった (23 歳男性)。
- ・ 多くの人、特に客と深く広くかかわる仕事はやりたくない (29 歳男性)。
- ・ 接客が苦手なので接客関係はやりたくないと思った (46 歳女性)。
- ・ 接客メインの仕事をやりたくないにした (22 歳男性)。
- ・ 接客業はやりたくないと思った (45 歳女性)。

以下のとおり、対人的な職業を好む回答者もいるが、相対的に数は少なかった。

- ・ 接客や人と接する仕事はやりたいと思った (28 歳女性)。
- ・ 人と関わる仕事はやってみたいと感じた (18 歳女性)。
- ・ 接客の仕事がしたい (25 歳女性)。
- ・ 人と接する仕事が良い (20 歳女性)。
- ・ 人と関わる仕事をしたい (21 歳男性)。
- ・ 人と楽しく話せるかも (39 歳男性)。
- ・ 人と接する系は基本的にやりたい (19 歳男性)。
- ・ 体力が必要な仕事はやりたくないが、人と関わる仕事には興味がありやりたい (21 歳女性)。
- ・ 人との接客業務はいろんな出会いがあり面白そうだから (49 歳男性)。

自由記述結果に基づく質的な分析であるため、本来、数量を問題にすることは適切ではな

いが、一応、数え上げると、文意が明確に「人と接する仕事を避ける」という意味の自由記述は60件、それに対して、文意が何らかの意味で「人と接する仕事をしたい」という意味の自由記述は10件であった。この大小関係をどのように捉えるかは判断を保留したいが、いずれにしても「人と接するかしないか(39歳男性)」「人と接するか否か(22歳女性)」「接客かそうでないか(18歳男性)」は、自由記述で見える限り、興味のある職業か否かを判断するにあたっての1つの大きな記述であることがうかがえる。

なお、こうした結果は、第2章及び第4章で「社会的」職業を忌避する傾向と類似のものと考えられる。したがって、先に「社会的」が忌避された傾向の背景には、人と接する職業、なかでも特に「接客」の仕事に対する否定的な印象が基盤となっていることが推察される。

なぜ「接客」の仕事避けたいと考えるのかについて、本研究のデータだけでは十分な考察をなし得ないが、若干の手がかりは得られた。例えば、接客業と関連する記述として以下のような記述がみられた。

- ・客に苦情を言われるような仕事はしたくない(45歳女性)。
- ・クレームが多そうな仕事はしたくない(40歳女性)。
- ・以前、接客業をしていてかなり精神的に疲れていたもので、接客が伴うものはしたくないと思った(37歳女性)。
- ・接客サービスに関連する業務に拒否感があることが改めて分かった(25歳男性)。

これらは、客からの苦情、クレームを言われる仕事を避けたいという記述、そして実際にそうした経験をして精神的に疲れたという記述、あるいはそうしたことを予期して拒否感があるという記述である。

こうした特徴は、対面で顧客に接触するという点で、少なくとも部分的には「感情労働」(Hochschild, 1983)の性質と類似する。そして、様々な議論はありつつも、概して「感情労働」は「燃え尽き(バーンアウト)」と結びつきやすいことが指摘されることが多い。また、「バーンアウト」研究の観点からも人との接触のあるヒューマンサービス職との関わりが指摘されてきた(久保, 2007)。これら先行研究を考え合わせた場合、現在、成人(大学生を含む)に広くみられる対人的な職業を忌避・回避する傾向には、顧客に気を遣い、時にクレームや苦情にも適切に応答しなければならないという感情労働に類似した側面があり、それがバーンアウトに結びつくか、あるいはそうなることを予期するという心理過程が伏在している可能性を指摘できる。

この点は、近年、コロナ禍を経てILOなどの国際機関においても注目されている。例えば、欧米で移民・難民問題、コロナ禍を経てエッセンシャルワーカー(Essential worker)やILOの用語ではキーワーカー(Key worker)を忌避する傾向が指摘されている(cf. ILO, 2023; JILPT, 2023)。なかでも対人的な職業を忌避する傾向が指摘されている。多文化・異文化の顧客と接するにあたって、文化背景の違いによる期待や習慣の相違から、従来とは異なる形で

のクレームや苦情に対応せざるを得ない場合が想定される。また、コロナ禍では他の職業が他者と接しないように適切な社会的距離をとることが推奨された時期においても、接客という仕事柄、人と接する必要があった。このように接客の仕事は、その認識が正しいか否かに関わらず、また実態を反映しているか否かによらず、以前と比べればリスクのある職業として認識されている可能性が高い。

また、別の観点から、人と「社会的」職業に含まれる「看護師」「教員」「保育士」などは、日本では従来から子どもの人気職業として知られてきた（日本労働研究機構, 2001; 2003）。いかながら、成人（大学生含む）を対象とした本研究では、「社会的」職業に対する興味が低かった。子どもを対象者に含めていない本研究のデータだけでは多くは語れないものの、ここには、子どもから成人に至る過程で「社会的」職業的に対する興味が失われるという発達的なプロセスを想定することも可能である。そのようなプロセスが生じる理由については、上述のとおり、もともと「社会的」職業に興味を持っており、そうした興味を活かした形で働いていた人が、様々な経験を積み、顧客と対応するなかで「バーンアウト」またはそれに準じる心理状態となり、「社会的」職業に対する興味が失っていったことが考えられるであろう。

ただし、このデータには他にも多様な解釈がありうる。例えば、Web 調査に参加するモニターの「性格」については、性格特性の5因子モデル（ビッグファイブ）を用いた研究によって、一定の傾向があることが知られている。例えば、林（2016）では、Web 調査で質問に回答する場合には有意に協調性、開放性が低かった。これは、同じ人であっても、Web 調査になると自分をより協調性・開放性が低いと認識しやすい可能性を示唆するものとされる。また、大森（2021）では、国勢調査、面接調査、インターネット調査の回答傾向を比較した結果、Web モニターの方が有意に外向性と協調性が低く、神経症傾向が高かったと報告している。このように Web 調査では「協調性や開放性が低くなる」「外向性と協調性が低く、神経症傾向が高い」という結果が示されている点を考慮すれば、今回、モニターを活用した Web 調査であったことの影響を十分に考慮する必要があるだろう（この段落は、職業構造・職業指導部門の鎌倉哲史副主任研究員の指摘による。引用文献も紹介していただいた）。

人と関わる職業、対人的な職業、人と接する職業などを忌避する傾向には、上述のとおり、いくつか検討に値する重要な論点があることから、今後、引き続き、研究を継続する必要があることを指摘できよう。

## 第5節 OHBY カードによる業種・職種・職業の選好:「対人的な職業」以外の職業

対人的な職業（＝「社会的」興味領域の職業）以外にも、比較的、まとまった記述がみられた職種・職業があった。その多くは、改定前の OHBY カードでも比較的知られていた傾向がであるが、今回、改めて確認された形となる。以下に、そうした職業及びその背景にある職業興味を列挙する。

まず、何らかの意味で責任を取る仕事、責任が重い仕事は興味を持たれなかった。

- ・ 責任感の強すぎる仕事や接客は苦手なので難しい 自分の興味のある分野の仕事なら頑張ることができる (26 歳女性)。
- ・ 自分がミスしたときに責任が及ぶ範囲が大きいことをやりたくないと思う気がする (26 歳女性)。
- ・ 1 人の責任が重いものはやりたくない (21 歳女性)。
- ・ 責任のある仕事はやりたくない (42 歳女性)。

また、動物が苦手という記述も複数みられた。これも OHBY カードを使用する過程で以前から知られていた。

- ・ 動物が苦手だから動物に関連する仕事はやりたくない。医療系の仕事は楽しそうなので就きたいと思った (47 歳女性)。
- ・ 動物が苦手だから動物に関する仕事はやりたくない。テレビ局で働きたい (19 歳男性)。
- ・ 動物が嫌いだから (20 歳男性)。
- ・ 全体的に第一次産業の職業にたいして自分がやりたくないと思っていることが分かった (18 歳女性)。

体力を使う仕事、きつい仕事、危険な仕事を避けたいという記述もみられた。

- ・ 基本的にはどんなこともやってみたいが、体力が続かなそうなものははぶいた (44 歳女性)。
- ・ 体力を使用する仕事は少し苦手です (20 歳女性)。
- ・ 体力仕事は無理 (48 歳男性)。
- ・ 力仕事はやりたくない (26 歳男性)。
- ・ 体力を使う仕事はだめ (41 歳女性)。
- ・ きつそうなやつは外した (32 歳男性)。
- ・ あまりにも重大すぎるもの、高所恐怖症なので高所系は選ばないようにした (21 歳女性)。
- ・ 肉体労働はあまりやりたくない (22 歳男性)。
- ・ 重労働は避けたい (21 歳女性)。
- ・ 危険なのはやりたくない (36 歳男性)。

逆に、興味をもった仕事としては、他に専門的な職業、事務的な職業があった。

- ・ 専門的な仕事が多かった (40 歳男性)。
- ・ 事務作業的なものは ok (45 歳男性)。

- ・事務系の方がやりたいと感じた（21 歳男性）。
- ・専門性の高い業種や業務がしたいと感じる（23 男性）。
- ・事務的な作業はやりたいと思いました（44 歳男性）。
- ・デスクワークならやりたいと思う（46 歳女性）。
- ・どちらかというとな事務やマニュアル的な仕事が良い（23 歳男性）。

また、創造的な仕事、クリエイティブな仕事にも興味を持たれていた。

- ・クリエイティブな仕事がやりたい（36 歳男性）。
- ・新しくデザインしたり企画する仕事をしたい（19 歳女性）。
- ・クリエイティブなことがやりたいのかなって思いました（22 歳女性）。
- ・創作的な意欲を掻き立てられるような仕事はやりたくなり、きつい仕事ややらされるような仕事は避けたい（47 歳男性）。

ちなみに、農業の仕事や動植物を対象とした仕事も比較的興味を持たれていた。

- ・農業がしてみたい（22 歳男性）。
- ・植物や動物を育てる仕事がしたい（29 歳女性）。
- ・自然の中で何かを育てることがいい（49 歳男性）。
- ・直感で選んだものもありますが、農業はしてみたい（21 歳女性）。
- ・人間よりも物や動植物と関わることに興味がある気がした（31 歳女性）。
- ・直接の人を相手にするのではなく、機械や動植物を対象にした仕事をやりたいと思うから（23 歳男性）。

以上、本章では、OHBY カードの評定後の自由記述についてまとめた。OHBY カードのイラストに対する「分かりやすい」「分かりにくい」といった評価、OHBY カードによる職業理解及び自己理解の促進、「対人的な職業」を忌避する傾向、その他の職業に対する興味等に関して、有意義な結果が得られた。ただし、あくまで OHBY カード評定後の自由記述に基づく結果であるため、一定の限界がある。今後、引き続き、職業興味に関する基礎的な研究、及び職業興味以外も含めた各種キャリアガイダンスツール全般の開発及びそれに向けた基礎研究を推進していく必要があるであろう。

## 引用文献

林明明（2016）. インターネット調査と従来型紙面調査による調査結果に違いはあるのか  
電気通信普及財団 研究調査助成報告書 No. 31.

<https://www.taf.or.jp/files/items/574/File/034.pdf>

- Hochschild, A. R. (1983). *The managed heart: Commercialisation of human feeling*. Berkeley: University of California Press. (ホックシールド, A. R. 石川准・室伏亜希 (監訳) (2000). *管理される心—感情が商品になるとき* 世界思想社)
- ILO (2023). *The value of essential work: World employment and social outlook 2023* ILO.
- JILPT (2023). *エッセンシャルワークの重要性—ILO 世界の雇用及び社会の見通し 2023 別冊* [https://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2023/08/ilo\\_01.html](https://www.jil.go.jp/foreign/jihou/2023/08/ilo_01.html)
- 久保真人 (2007). *バーンアウト (燃え尽き症候群) —ヒューマンサービス職のストレス* 日本労働研究雑誌, 558, 54-64.
- 大森翔子 (2021). *インターネット調査のサンプル特性: 国勢調査・面接調査との比較* NIRA ワーキングペーパーNo. 1. <https://www.nira.or.jp/paper/article/2021/wp01.html>

## 資料1 調査票

### OHBYカード改訂版にかかる調査

○この調査では、回答者の方の職業興味（様々な職業に興味を持ったり、やってみたいと思う気持ち）について、様々な角度からおたずねします。

○学生・生徒をはじめ若者の職業興味を調べるツールの開発のための基礎資料となりますので、ご自身の職業興味について、あまり考えこまずに、お答えください。

問1 下に示した職業領域について、興味があると思ったり、やってみたいと思った順に、1位から6位まで順位を付けてください。

職業領域	順位
機械や物を対象とする具体的で実地的な職業の領域	
研究や調査などのような研究的、探索的な職業の領域	
音楽、美術、文芸などを対象とする職業の領域	
人に接したり、奉仕したりする職業の領域	
企画や組織運営、経営などの職業の領域	
定まった方式や規則に従って行動するような職業の領域	

問2 仕事の内容について書かれているイラストを見て、少しでも興味を持てたり、やってみたいと思ったら「やりたい」を、全く興味を持てなかったり、やりたくないと思ったら「やりたくない」を、どちらとも決められない場合には「どちらともいえない」を選んでください。

答える時に、仕事についてのあなたの実際の就職の可能性やその仕事の労働条件（賃金、働く場所など）を考える必要はありません。その作業をやりたいかどうか、直感的に思ったまま回答してください。

- 1 やりたい
- 2 やりたくない
- 3 どちらともいえない



Job01\_A.jpg



Job01\_R.jpg



Job02\_A.png



Job02\_R.png



Job03\_A.jpg



Job03\_B.jpg



Job04\_A.jpg



Job04\_B.jpg



Job05\_A.jpg



Job05\_B.jpg



Job06\_A.jpg



Job06\_B.jpg



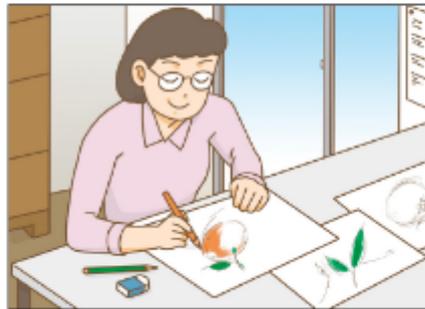
Job07\_A.jpg



Job07\_B.jpg



Job08\_A.jpg



Job08\_B.jpg



job09\_A.jpg



job09\_B.jpg



job10\_A.jpg



job10\_B.jpg



job11\_A.jpg



job11\_B.jpg



job12\_A.jpg



job12\_B.jpg



Job13\_A.jpg



Job13\_B.jpg



Job14\_A.jpg



Job14\_B.jpg



Job15\_A.jpg



Job15\_B.jpg



Job16\_A.jpg



Job16\_B.jpg



Job17\_A.jpg



Job18\_A.jpg



Job17\_B.jpg



Job18\_B.jpg



Job19\_A.jpg



Job20\_A.jpg



Job19\_B.jpg



Job20\_B.jpg



Job21\_A.png



Job21\_B.png



Job22\_A.jpg



Job22\_B.jpg



Job23\_A.jpg



Job23\_B.jpg



Job24\_A.jpg



Job24\_B.jpg



Job25\_A.jpg



Job25\_B.jpg



Job26\_A.jpg



Job26\_B.jpg



Job27\_A.jpg



Job27\_B.jpg



Job28\_A.jpg



Job28\_B.jpg



Job29\_A.jpg



Job29\_B.jpg



Job30\_A.jpg



Job30\_B.jpg



Job31\_A.jpg



Job31\_B.jpg



Job32\_A.jpg



Job32\_B.jpg



Job33\_A.jpg



Job33\_B.jpg



Job34\_A.jpg



Job34\_B.jpg



Job35\_A.jpg



Job35\_B.jpg



Job36\_A.jpg



Job36\_B.jpg



Job37\_A.jpg



Job37\_B.jpg



Job38\_A.jpg



Job38\_B.jpg



Job39\_A.jpg



Job39\_B.jpg



Job40\_A.jpg



Job40\_B.jpg



Job41\_A.jpg



Job41\_B.jpg



Job42\_A.jpg



Job42\_B.jpg



Job43\_A.jpg



Job43\_B.jpg



Job44\_A.jpg



Job44\_B.jpg



Job45\_A.jpg



Job45\_B.jpg



Job46\_A.jpg



Job46\_B.jpg



Job47\_A.jpg



Job47\_B.jpg



Job48\_A.jpg



Job48\_B.jpg

### 問3 自由記述

イラストを見て、「やりたい」「やりたくない」「どちらともいえない」を選んだ感想を、どんなことでも良いのでお書きください。

### 問4 職業興味に関する診断テスト

仕事の内容について書かれている文を読み、少しでも興味を持てたり、やってみたいと思ったら「やりたい」を、全く興味を持てなかったり、やりたくないと思ったら「やりたくない」を、どちらとも決められない場合には「どちらともいえない」を選んでください。

答える時に、仕事についてのあなたの実際の就職の可能性やその仕事の労働条件（賃金、働く場所など）を考える必要はありません。その作業をやってみたいかどうか、直感的に思ったまま回答しましょう。

- 1 やりたい
- 2 やりたくない
- 3 どちらともいえない

1. 工事現場で、ブルドーザーやクレーンを運転する
2. 大学や研究所で、科学の研究をする
3. 雑誌やパンフレットなどにイラストをかく
4. 患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする
5. 社長として、会社の経営の仕事にあたる
6. 文字や数字を、書類に正確に記入する
7. 自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する
8. 新しい薬を開発する

9. テレビドラマや映画のシナリオを書く
10. 家庭を訪問して、お年寄りや体の不自由な人の世話をする
11. 店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売上を伸ばす
12. 帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする
13. 木材を加工し、組み立てて、家を建てる
14. 新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる
15. 洋服やアクセサリーのデザインをする
16. 保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする
17. 自分の店を経営する
18. 文字や数字を、コンピュータに入力する
19. 部品を組み立てて機械を作る
20. 環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する
21. 人物や風景、物の写真をとり、雑誌やポスターに発表する
22. 悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する
23. 流行しそうな商品を仕入れ、売り出しの方法を考える
24. 従業員の毎月の給料を計算する
25. 飛行機が安全に飛べるように、点検や整備をする
26. 農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする
27. 家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする
28. ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする
29. 客を集めるため、広告や催し物などを企画する
30. 会社で書類のコピーをとったり、電話の取次ぎをする
31. 船に乗って、魚や貝などの漁をする
32. 博物館などで、歴史・民俗などの資料を集め、研究する
33. 曲を作ったり、編曲したりする
34. 飛行機の中で、乗客にサービスをする
35. テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る
36. 依頼に来た客に代わって、役所へ出す書類を作成する
37. 火事の現場に駆け付け、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う
38. 古い地層から化石や骨を集め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる
39. インターネットのホームページのデザインをする
40. ツアー旅行に同行し、宿や観光の手配など参加者の世話をする
41. ニュースを読んだり、テレビやラジオの番組の司会をする
42. 銀行で現金を支払ったり、受け取ったりする

**問5 あなたご自身のことについて、それぞれ該当するもの1つに○をつけてください。**

(1) 性別 1 男性 2 女性 3 その他

(2) 年齢 ( ) 歳

(3) 配偶者の有無 (現在) 1 あり 2 なし

(4) 最終学歴 (中退者は、その前の学歴とします)

1 中学・高等学校 2 専修学校・短大・高専 3 大学 (文系)

4 大学 (理系) 5 大学院 (文系) 6 大学院 (理系)

7 大学・大学院在学中

(5) 雇用形態

1 正社員 2 正社員以外 嘱託

3 正社員以外 契約社員 4 正社員以外 パートタイム労働者

5 正社員以外 派遣労働者 6 その他

7 大学・大学院在学中

(6) 業務

1 管理的な仕事 2 専門的・技術的な仕事 3 事務的な仕事

4 販売の仕事 5 サービスの仕事 6 保安の仕事

7 生産工程の仕事 8 輸送・機械運転の仕事 9 建設・採掘の仕事

10 運搬・清掃・包装等の仕事 11 その他の仕事

12 大学・大学院在学中

(7) 勤務先等全体の従業員数 (パート・アルバイトを除く)

1 29人以下 2 30～49人 3 50～99人 4 100～299人

5 300～499人 6 500～999人 7 1,000人以上

8 大学・大学院在学中

(8) あなた個人の最近1年間のおおよその税込み年収

1 なし 2 100万円未満 3 100～200万円未満

4 200～300万円未満 5 300～400万円未満 6 400～500万円未満

7 500～600万円未満 8 600～700万円未満 9 700～800万円未満

10 800～900万円未満 11 900～1,000万円未満 12 1,000～1,100万円未満

13 1,100～1,200万円未満 14 1,200～1,300万円未満

15 1,300～1,400万円未満 16 1,400～1,500万円未満

- 17 1,500～1,600万円未満      18 1,600～1,700万円未満  
 19 1,700～1,800万円未満      20 1,800～1,900万円未満  
 21 1,900～2,000万円未満      22 2,000万円以上

※学生の方はアルバイト収入をお答えください。

**問6 職業生活について、日頃どのようにお考えになっているのかをおたずねします。下の表の事から  
 について、あてはまるものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)**

	全くあ てはま らない	あまり あては まらな い	どちらと もいえ ない	ややあ てはま る	よく あては まる
1.職業生活の設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている	1	2	3	4	5
2.これからの職業生活をより充実したものにしたいと強く思う	1	2	3	4	5
3.どうすれば職業生活をよりよく送れるのか、考えたことがある	1	2	3	4	5
4.自分から進んで、どんな職業生活を送っていくのか決めている	1	2	3	4	5
5.これからの職業生活を通して、さらに自分自身を伸ばして高めていきたい	1	2	3	4	5
6.職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	1	2	3	4	5
7.今後どんな職業生活を送っていききたいか、自分なりの目標をもっている	1	2	3	4	5
8.希望する職業生活が送れるように、努力している	1	2	3	4	5
9.自分が望む職業生活を送るために、具体的な計画を立てている	1	2	3	4	5

**問7 あなたは、これまでの職業生活やキャリアに、どの程度、満足していますか。(○は1つだけ)**

- 1 かなり満足している      2 やや満足している  
 3 どちらともいえない      4 あまり満足していない  
 5 まったく満足していない

## 資料2 単純集計

F1	あなたの性別をお答えください。	N	%
1	男性	400	50.0
2	女性	400	50.0
	全体	800	100.0

F2	あなたの年齢をお答えください。						
		全体	平均	標準偏差	最小値	最大値	中央値
		800	31.88	9.567	18	49	30

【性年代別】	【性年代別】	N	%
1	男性10～20代	200	25.0
2	男性30代	100	12.5
3	男性40代	100	12.5
4	女性10～20代	200	25.0
5	女性30代	100	12.5
6	女性40代	100	12.5
	全体	800	100.0

F3	あなたのお住まいの地域をお答えください。	N	%
1	北海道	33	4.1
2	青森県	8	1.0
3	岩手県	3	0.4
4	宮城県	21	2.6
5	秋田県	5	0.6
6	山形県	1	0.1
7	福島県	12	1.5
8	茨城県	11	1.4
9	栃木県	11	1.4
10	群馬県	11	1.4
11	埼玉県	66	8.3
12	千葉県	36	4.5
13	東京都	148	18.5
14	神奈川県	77	9.6
15	新潟県	12	1.5
16	富山県	4	0.5
17	石川県	5	0.6
18	福井県	8	1.0
19	山梨県	4	0.5
20	長野県	8	1.0
21	岐阜県	7	0.9
22	静岡県	15	1.9
23	愛知県	41	5.1
24	三重県	10	1.3
25	滋賀県	7	0.9
26	京都府	22	2.8
27	大阪府	58	7.3
28	兵庫県	33	4.1
29	奈良県	10	1.3
30	和歌山県	5	0.6
31	鳥取県	2	0.3
32	島根県	3	0.4
33	岡山県	13	1.6
34	広島県	13	1.6
35	山口県	7	0.9
36	徳島県	5	0.6
37	香川県	4	0.5
38	愛媛県	5	0.6
39	高知県	2	0.3
40	福岡県	28	3.5
41	佐賀県	0	-
42	長崎県	4	0.5
43	熊本県	3	0.4
44	大分県	5	0.6
45	宮崎県	3	0.4
46	鹿児島県	4	0.5
47	沖縄県	7	0.9
48	海外	0	-
	全体	800	100.0

SC1	職業を教えてください。	N	%
1	正社員	288	36.0
2	正社員以外 嘱託	2	0.3
3	正社員以外 契約社員	18	2.3
4	正社員以外 パートタイム労働者	91	11.4
5	正社員以外 派遣労働者	15	1.9
6	大学生	200	25.0
7	大学院生	5	0.6
8	専門学生	2	0.3
9	その他	179	22.4
	全体	800	100.0

Q1	下に示した職業領域について、興味があると思ったり、やってみたくと思った順に、1位から6位まで順位を付けてください。※あてはまるものがない方もいって言えばお答えください。	全体	1	2	3	4	5	6
			機械や物を対象とする具体的な職業の領域	研究や調査などのような研究的、探索的な職業の領域	音楽、美術、文芸などを対象とする職業の領域	人に接したり、奉仕したりする職業の領域	企画や組織運営、経営などの職業の領域	定まった方式や規則に従って行動するような職業の領域
Q1S1	1位	800 100.0	74 9.3	141 17.6	159 19.9	152 19.0	98 12.3	176 22.0
Q1S2	2位	800 100.0	155 19.4	172 21.5	106 13.3	103 12.9	103 12.9	161 20.1
Q1S3	3位	800 100.0	166 20.8	163 20.4	97 12.1	73 9.1	143 17.9	158 19.8
Q1S4	4位	800 100.0	150 18.8	137 17.1	130 16.3	97 12.1	166 20.8	120 15.0
Q1S5	5位	800 100.0	152 19.0	97 12.1	136 17.0	159 19.9	158 19.8	98 12.3
Q1S6	6位	800 100.0	103 12.9	90 11.3	172 21.5	216 27.0	132 16.5	87 10.9

Q2	仕事の内容について書かれているイラストを見て、少しでも興味を持ったり、やってみたくと思ったら「やりたい」を、全く興味を持てなかったり、やりたくないとと思ったら「やりたくない」を、どちらも決められない場合には「どちらともいえない」を選んでください。	全体	1	2	3
			やりたい	やりたくない	どちらともいえない
Q2S1	コピーライター	800 100.0	217 27.1	342 42.8	241 30.1
Q2S2	テレビカメラマン	800 100.0	179 22.4	430 53.8	191 23.9
Q2S3	舞台美術スタッフ	800 100.0	282 35.3	316 39.5	202 25.3
Q2S4	インダストリアルデザイナー	800 100.0	259 32.4	332 41.5	209 26.1
Q2S5	アートディレクター	800 100.0	223 27.9	365 45.6	212 26.5
Q2S6	ファッションデザイナー	800 100.0	226 28.3	389 48.6	185 23.1
Q2S7	翻訳者	800 100.0	203 25.4	375 46.9	222 27.8
Q2S8	イラストレーター	800 100.0	277 34.6	353 44.1	170 21.3
Q2S9	医療事務	800 100.0	162 20.3	409 51.1	229 28.6
Q2S10	学校事務	800 100.0	215 26.9	351 43.9	234 29.3
Q2S11	空港グランドスタッフ	800 100.0	178 22.3	434 54.3	188 23.5
Q2S12	航空管制官	800 100.0	259 32.4	333 41.6	208 26.0
Q2S13	司法書士	800 100.0	196 24.5	401 50.1	203 25.4
Q2S14	税理士	800 100.0	176 22.0	429 53.6	195 24.4
Q2S15	秘書	800 100.0	169 21.1	425 53.1	206 25.8
Q2S16	旅行会社カウンター係	800 100.0	178 22.3	443 55.4	179 22.4
Q2S17	自動車営業	800 100.0	102 12.8	523 65.4	175 21.9

Q2S18	商社営業	800 100.0	186 23.3	407 50.9	207 25.9
Q2S19	新聞記者	800 100.0	126 15.8	479 59.9	195 24.4
Q2S20	スーパー店長	800 100.0	190 23.8	396 49.5	214 26.8
Q2S21	ツアーコンダクター	800 100.0	136 17.0	487 60.9	177 22.1
Q2S22	ホテル・旅館支配人	800 100.0	148 18.5	446 55.8	206 25.8
Q2S23	ハンバーガーショップ店長	800 100.0	199 24.9	407 50.9	194 24.3
Q2S24	放送ディレクター	800 100.0	211 26.4	389 48.6	200 25.0
Q2S25	バイオテクノロジー研究者	800 100.0	267 33.4	320 40.0	213 26.6
Q2S26	気象予報士	800 100.0	175 21.9	422 52.8	203 25.4
Q2S27	歯科医師	800 100.0	95 11.9	557 69.6	148 18.5
Q2S28	獣医師	800 100.0	177 22.1	429 53.6	194 24.3
Q2S29	診療放射線技師	800 100.0	155 19.4	433 54.1	212 26.5
Q2S30	ソフトウェア開発(パッケージソフト)	800 100.0	226 28.3	363 45.4	211 26.4
Q2S31	芸員	800 100.0	207 25.9	390 48.8	203 25.4
Q2S32	薬剤師	800 100.0	254 31.8	324 40.5	222 27.8
Q2S33	稲作農業者	800 100.0	185 23.1	425 53.1	190 23.8
Q2S34	自動車組立	800 100.0	125 15.6	506 63.3	169 21.1
Q2S35	大工	800 100.0	143 17.9	478 59.8	179 22.4
Q2S36	電車運転士	800 100.0	185 23.1	438 54.8	177 22.1
Q2S37	とび	800 100.0	82 10.3	587 73.4	131 16.4
Q2S38	酪農従事者	800 100.0	163 20.4	458 57.3	179 22.4
Q2S39	路線バス運転手	800 100.0	115 14.4	517 64.6	168 21.0
Q2S40	和菓子製造、和菓職人	800 100.0	269 33.6	332 41.5	199 24.9
Q2S41	外務公務員(外交官)	800 100.0	118 14.8	523 65.4	159 19.9
Q2S42	看護師	800 100.0	103 12.9	546 68.3	151 18.9
Q2S43	カフェ店員	800 100.0	219 27.4	385 48.1	196 24.5
Q2S44	キャリアカウンセラー／キャリアコンサルタント	800 100.0	135 16.9	454 56.8	211 26.4
Q2S45	小学校教員	800 100.0	116 14.5	514 64.3	170 21.3
Q2S46	日本語教師	800 100.0	141 17.6	483 60.4	176 22.0
Q2S47	保育士	800 100.0	137 17.1	494 61.8	169 21.1
Q2S48	訪問介護員／ホームヘルパー	800 100.0	100 12.5	539 67.4	161 20.1

Q4	仕事の内容について書かれている文を読み、少しでも興味を持てたり、やってみたいと思ったら「やりたい」を、全く興味を持てなかったり、やりたくないと思ったら「やりたくない」を、どちらとも決められない場合には「どちらともいえない」を選んでください。答える時に、仕事についてのあなたの実際の就職の可能性やその仕事の労働条件（賃金、働く場所など）を考える必要はありません。その作業をやってみたいかどうか、直感的に思ったまま回答してください。	全体	1	2	3
			やりたい	やりたくない	どちらともいえない
Q4S1	工事現場で、ブルドーザーやクレーンを運転する	800 100.0	112 14.0	527 65.9	161 20.1
Q4S2	大学や研究所で、科学の研究をする	800 100.0	273 34.1	338 42.3	189 23.6
Q4S3	雑誌やパンフレットなどにイラストをかく	800 100.0	227 28.4	422 52.8	151 18.9
Q4S4	患者の体温や血圧を測ったり、入院患者の世話をする	800 100.0	112 14.0	527 65.9	161 20.1
Q4S5	社長として、会社の経営の仕事にあたる	800 100.0	170 21.3	467 58.4	163 20.4
Q4S6	文字や数字を、書類に正確に記入する	800 100.0	310 38.8	295 36.9	195 24.4
Q4S7	自動車のエンジンやブレーキを調べて、修理する	800 100.0	131 16.4	506 63.3	163 20.4
Q4S8	新しい薬を開発する	800 100.0	238 29.8	387 48.4	175 21.9
Q4S9	テレビドラマや映画のシナリオを書く	800 100.0	188 23.5	433 54.1	179 22.4
Q4S10	家庭を訪問して、お年寄りや体の不自由な人の世話をする	800 100.0	99 12.4	544 68.0	157 19.6
Q4S11	店長として、商品の仕入れや販売方法を工夫し、売上を伸ばす	800 100.0	176 22.0	432 54.0	192 24.0
Q4S12	帳簿や伝票に書かれた金額の計算をする	800 100.0	237 29.6	362 45.3	201 25.1
Q4S13	木材を加工し、組み立てて、家を建てる	800 100.0	148 18.5	488 61.0	164 20.5
Q4S14	新しい理論を考えて、調査や実験でそれを確かめる	800 100.0	252 31.5	357 44.6	191 23.9
Q4S15	洋服やアクセサリーのデザインをする	800 100.0	221 27.6	391 48.9	188 23.5
Q4S16	保育園で乳幼児の世話をしたり、いっしょに遊んだりする	800 100.0	145 18.1	486 60.8	169 21.1
Q4S17	自分の店を経営する	800 100.0	211 26.4	385 48.1	204 25.5
Q4S18	文字や数字を、コンピュータに入力する	800 100.0	362 45.3	252 31.5	186 23.3
Q4S19	部品を組み立てて機械を作る	800 100.0	202 25.3	397 49.6	201 25.1
Q4S20	環境をよくするために大気や水の汚れを測定し、分析する	800 100.0	238 29.8	353 44.1	209 26.1
Q4S21	人物や風景、物の写真を撮り、雑誌やポスターに発表する	800 100.0	239 29.9	376 47.0	185 23.1
Q4S22	悩みをもつ子どもやその家族からの相談にのり、援助する	800 100.0	186 23.3	431 53.9	183 22.9
Q4S23	流行しそうな商品を仕入れ、売り出しの方法を考える	800 100.0	249 31.1	367 45.9	184 23.0
Q4S24	従業員の毎月の給料を計算する	800 100.0	266 33.3	330 41.3	204 25.5
Q4S25	飛行機が安全に飛べるように、点検や整備をする	800 100.0	161 20.1	446 55.8	193 24.1
Q4S26	農業試験場で、農作物の品種改良の研究をする	800 100.0	208 26.0	422 52.8	170 21.3
Q4S27	家具や照明など、部屋のインテリアのデザインをする	800 100.0	250 31.3	362 45.3	188 23.5
Q4S28	ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする	800 100.0	192 24.0	425 53.1	183 22.9
Q4S29	客を集めるため、広告や催し物などを企画する	800 100.0	192 24.0	421 52.6	187 23.4
Q4S30	会社で書類のコピーをとったり、電話の取次ぎをする	800 100.0	217 27.1	402 50.3	181 22.6

Q4S31	船に乗って、魚や貝などの漁をする	800 100.0	120 15.0	511 63.9	169 21.1
Q4S32	博物館などで、歴史・民俗などの資料を集め、研究する	800 100.0	275 34.4	332 41.5	193 24.1
Q4S33	曲を作ったり、編曲したりする	800 100.0	188 23.5	434 54.3	178 22.3
Q4S34	飛行機の中で、乗客にサービスをする	800 100.0	156 19.5	480 60.0	164 20.5
Q4S35	テレビやラジオの番組を企画し、番組づくりを取り仕切る	800 100.0	184 23.0	426 53.3	190 23.8
Q4S36	依頼に来た客に代わって、役所へ出す書類を作成する	800 100.0	207 25.9	386 48.3	207 25.9
Q4S37	火事の現場に駆け付け、逃げ遅れた人を助けたり、消火活動を行う	800 100.0	103 12.9	534 66.8	163 20.4
Q4S38	古い地層から化石や骨を集め、恐竜や昔の生き物の生活を調べる	800 100.0	253 31.6	379 47.4	168 21.0
Q4S39	インターネットのホームページのデザインをする	800 100.0	248 31.0	357 44.6	195 24.4
Q4S40	ツアー旅行に同行し、宿や観光の手配など参加者の世話をする	800 100.0	141 17.6	493 61.6	166 20.8
Q4S41	ニュースを読んだり、テレビやラジオの番組の司会をする	800 100.0	158 19.8	496 62.0	146 18.3
Q4S42	銀行で現金を支払ったり、受け取ったりする	800 100.0	195 24.4	379 47.4	226 28.3

Q5	職業生活について、日頃どのようにお考えになっているのかをおたずねします。下の表の事がらについて、あてはまるものを選択してください。	全体	1	2	3	4	5
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
Q5S1	職業生活の設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている	800 100.0	97 12.1	257 32.1	272 34.0	114 14.3	60 7.5
Q5S2	これからの職業生活をより充実したものにしたいと強く思う	800 100.0	132 16.5	283 35.4	249 31.1	86 10.8	50 6.3
Q5S3	どうすれば職業生活をよりよく送れるのか、考えたことがある	800 100.0	98 12.3	272 34.0	238 29.8	115 14.4	77 9.6
Q5S4	自分から進んで、どんな職業生活を送っていくのか決めている	800 100.0	83 10.4	228 28.5	265 33.1	142 17.8	82 10.3
Q5S5	これからの職業生活を通して、さらに自分自身を伸ばして高めていきたい	800 100.0	108 13.5	262 32.8	259 32.4	100 12.5	71 8.9
Q5S6	職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	800 100.0	84 10.5	231 28.9	293 36.6	127 15.9	65 8.1
Q5S7	今後どんな職業生活を送っていかたいか、自分なりの目標をもっている	800 100.0	74 9.3	257 32.1	241 30.1	137 17.1	91 11.4
Q5S8	希望する職業生活が送れるように、努力している	800 100.0	82 10.3	246 30.8	278 34.8	111 13.9	83 10.4
Q5S9	自分が望む職業生活を送るために、具体的な計画を立てている	800 100.0	66 8.3	202 25.3	263 32.9	163 20.4	106 13.3

NQ5	職業生活について、日頃どのようにお考えになっているのかをおたずねします。下の表の事がらについて、あてはまるものを選択してください。	全体	1	2	3	4	5
			よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
NQ5S1	職業生活の設計は自分にとって重要な問題なので、真剣に考えている	800 100.0	97 12.1	257 32.1	272 34.0	114 14.3	60 7.5
NQ5S2	これからの職業生活をより充実したものにしたいと強く思う	800 100.0	132 16.5	283 35.4	249 31.1	86 10.8	50 6.3
NQ5S3	どうすれば職業生活をよりよく送れるのか、考えたことがある	800 100.0	98 12.3	272 34.0	238 29.8	115 14.4	77 9.6
NQ5S4	自分から進んで、どんな職業生活を送っていくのか決めている	800 100.0	83 10.4	228 28.5	265 33.1	142 17.8	82 10.3
NQ5S5	これからの職業生活を通して、さらに自分自身を伸ばして高めていきたい	800 100.0	108 13.5	262 32.8	259 32.4	100 12.5	71 8.9
NQ5S6	職業生活で難しい問題に直面しても、自分なりに積極的に解決していく	800 100.0	84 10.5	231 28.9	293 36.6	127 15.9	65 8.1
NQ5S7	今後どんな職業生活を送っていかたいか、自分なりの目標をもっている	800 100.0	74 9.3	257 32.1	241 30.1	137 17.1	91 11.4
NQ5S8	希望する職業生活が送れるように、努力している	800 100.0	82 10.3	246 30.8	278 34.8	111 13.9	83 10.4
NQ5S9	自分が望む職業生活を送るために、具体的な計画を立てている	800 100.0	66 8.3	202 25.3	263 32.9	163 20.4	106 13.3

Q6	あなたは、これまでの職業生活やキャリアに、どの程度、満足していますか。	N	%
1	かなり満足している	53	6.6
2	やや満足している	181	22.6
3	どちらともいえない	282	35.3
4	あまり満足していない	143	17.9
5	まったく満足していない	141	17.6
	全体	800	100.0

NQ6	あなたは、これまでの職業生活やキャリアに、どの程度、満足していますか。	N	%
1	かなり満足している	53	6.6
2	やや満足している	181	22.6
3	どちらともいえない	282	35.3
4	あまり満足していない	143	17.9
5	まったく満足していない	141	17.6
	全体	800	100.0

Q7	現在の婚姻状況を教えてください。	N	%
1	既婚	238	29.8
2	未婚(離婚・死別)	562	70.3
	全体	800	100.0

Q8_1	最終学歴を教えてください。(中退者は、その前の学歴とします)	N	%
1	中学・高等学校	179	29.8
2	専修学校・短大・高専	120	20.0
3	大学(文系)	181	30.2
4	大学(理系)	81	13.5
5	大学院(文系)	13	2.2
6	大学院(理系)	26	4.3
	全体	600	100.0

Q8_2	大学の専攻を教えてください。	N	%
1	文系	115	57.5
2	理系	82	41.0
3	その他	3	1.5
	全体	200	100.0

Q9	仕事内容を教えてください。※複数あてはまる方は、最も中心的なお仕事についてお答えください。	N	%
1	管理的な仕事	22	5.3
2	専門的・技術的な仕事	73	17.6
3	事務的な仕事	126	30.4
4	販売の仕事	43	10.4
5	サービスの仕事	63	15.2
6	保安の仕事	6	1.4
7	生産工程の仕事	30	7.2
8	輸送・機械運転の仕事	6	1.4
9	建設・採掘の仕事	9	2.2
10	運搬・清掃・包装等の仕事	13	3.1
11	その他の仕事	23	5.6
	全体	414	100.0

Q10	従業員数を教えてください。(パート・アルバイトを除く)※複数あてはまる方は、最も中心的なお仕事についてお答えください。	N	%
1	29人以下	113	27.3
2	30～49人	35	8.5
3	50～99人	51	12.3
4	100～299人	61	14.7
5	300～499人	20	4.8
6	500～999人	37	8.9
7	1,000人以上	97	23.4
	加重平均		325.1
	全体	414	100.0

Q11	直近1年以内の個人年収(税込み)を教えてください。※学生の方はアルバイト収入をお答えください。		
		N	%
1	なし	146	18.3
2	100万円未満	219	27.4
3	100～200万円未満	86	10.8
4	200～300万円未満	74	9.3
5	300～400万円未満	85	10.6
6	400～500万円未満	76	9.5
7	500～600万円未満	41	5.1
8	600～700万円未満	26	3.3
9	700～800万円未満	18	2.3
10	800～900万円未満	10	1.3
11	900～1,000万円未満	8	1.0
12	1,000～1,100万円未満	2	0.3
13	1,100～1,200万円未満	2	0.3
14	1,200～1,300万円未満	2	0.3
15	1,300～1,400万円未満	1	0.1
16	1,400～1,500万円未満	0	-
17	1,500～1,600万円未満	2	0.3
18	1,600～1,700万円未満	0	-
19	1,700～1,800万円未満	0	-
20	1,800～1,900万円未満	0	-
21	1,900～2,000万円未満	1	0.1
22	2,000万円以上	1	0.1
	加重平均		2915137.6
	全体	800	100.0

---

JILPT 資料シリーズ No. 275  
OHBY カード改訂版に伴う背景データの分析  
—OHBY カードにみる成人の職業興味の特徴—

発行年月日 2024年3月13日  
編集・発行 独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
〒177-8502 東京都練馬区上石神井4-8-23  
(照会先) 研究調整部研究調整課 TEL:03-5991-5104